

EnaLloid

ENNA

Craftsmanship makes a *"difference"*

Ena Optical Mfg. Co., Ltd.
恵那眼鏡工業株式会社

〒508-0101 岐阜県中津川市苗木 4827-48

TEL : (0573)-67-2211 (代)

FAX : (0573)-67-2214

E-mail : info@ena-gf.jp

私たちは、塗料事業で培った技術と人財を
最大限に生かした製品・サービスを通じて、
人と社会の発展を支えます。

世界をフィールドに挑戦を続ける

 **KANSAI
PAINT**

www.kansai.co.jp

咲耶



写真撮影：並川嘉文・外国語学部



会報「咲耶」
2024 No. 35

咲耶会 (大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

出典: <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/minoh/minoh.html>



【表紙のこぼれ】

2024年3月23日、箕面新キャンパスへの移転から3年、北大阪急行の延伸工事が完了、新駅「箕面船場阪大前駅」が開業した。白い8枚屋根の下にあるのが、地下3階、地上2階建ての駅のエントランス。地下3階の改札口から地上2階の歩行者デッキにつながる巨大な吹き抜け空間の中を高低差16メートルの大型エスカレータが直通する。エスカレータを上り歩行者デッキを歩くこと約2分、箕面キャンパス3階のエントランスに到着する。

新大阪まで16～17分、大阪梅田まで22～24分、伊丹空港からのアクセスもよく、駅の誕生で、OUグローバルキャンパス(大阪大学箕面キャンパス)が、学術、文化、国際交流の拠点としてますます発展していくことが期待される。豊中、吹田キャンパスの中間にあり、「大阪大学が世界に向かう『ヘッドクォーター(司令部)』となるポテンシャルを持つ場所」との平野俊夫前総長の言葉が現実のものとなってきた。

目次

2-3	ご挨拶 咲耶会会長 大内 一 大阪大学 統括理事・副学長 田中敏宏 外国語学部長 筒井佐代 令和6年度 総会・懇親会のご案内
4	外語精神を未来へ—後輩へのメッセージ
5-6	令和5年度大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会
7	陳舜臣生誕100周年記念 特別寄稿
8	朝鮮語学科創設60周年記念集会 60周年記念誌『わたしのひとこと』より
9-10	[特集] 留学体験記 吉川良雅/岡本(高橋)奏奈子
11-12	私のキャリアレポート 山田美緒/多武芳恵
13	菜の花 福田玲三
14-17	CAMPUS NEWS
18-19	部活動の広場
20-23	咲耶会ニュース 令和5年度 決算報告/令和6年度 予算案
24-25	つどい
25-29	支部日より
30-32	短信
33	追悼文 物故者
34-36	年会費支払者・賛助金寄付者一覧
37	咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表
38	令和6年度 咲耶会役員名簿 個人情報の取扱いについて 編集後記

ご挨拶



咲耶会会長
大内 一

会員の皆様には、咲耶会の運営や諸活動に日頃よりご協力ならびにご参加いただき、誠にありがとうございます。咲耶会役員の「若返り」を図る第一歩として私が前会長から本職を引き継いでから2年が経過しようとしています。副会長ならびに幹事の顔ぶれの「若返り」も、少しずつではありますが実感できるようになりました。とりわけ、お仕事が多忙のなかで、会員全体のみならず後輩学生のことを考えながら、咲耶会の様々な活動を企画して下さる若手幹事の方々のバイタリティに敬服するとともに、その献身ぶりに心から感謝しています。古参役員の知恵・知識と経験という財と若手役員の企画・行動力という財がバランスよくかみ合ったとき、咲耶会の新たなフェーズが始まるものと確信しています。

昨今は、経済的な不況や学生気質の変化の影響を受けてか、会員数の減少とそれに伴う会費収入の減少により、咲耶会の活動も、残念ながら外国語学部への寄付や学生支援に充てる費用を削減せざるを得ず、会員の皆様に対するサービス活動を如何にして質を落とさず継続させるかに四苦八苦しています。

咲耶会は、卒業年次に無関係に、会員の皆様の学生時代の記憶の「拠り所」でありたいと思っています。日本国内

のみならず世界の各地で活躍されている会員の皆様を(各支部を介してあるいは直に)結ぶハブとしての役割を果たすべく、会報『咲耶』を発行し、これと平行して公式ホームページやFacebook、X(旧Twitter)、Instagramといった公式SNSを開設して、会員の皆様の交流あるいは情報交換の場を提供することに努めています。

上記以外の咲耶会の主な活動として、毎年総会に際し、現役で活躍されている高名な学部卒業生をお招きして、時宜にあったご講演をして頂いています。今年、東京大学大学院総合文化研究科教授で現代中国研究が専門の阿古智子氏(中国語大42期)にご講演頂く予定です。また、偉大な先輩である司馬遼太郎氏の業績を偲ぶ「司馬遼太郎学術記念講演会」に協賛しています。その他、外国語学部と大学院(外国語専攻および日本学専攻)の膝元である利点を生かし、教員の方々による各種講演会に関する広報協力や参加支援を行っています。また、外国語学部の伝統行事である語劇祭にも後援しています。これらの行事については、咲耶会のホームページや公式SNSにて、日時等の情報をお伝えしていますので、ご都合が合えば積極的にご参加いただければ幸いです。

最後になりましたが、本部事務局では、咲耶会の『同窓生名簿』(2025年版)の発行に向けて準備を進めています。個人情報を取扱う点で最大限の注意を払いながらの作業となりますが、皆様の心あるご協力をお願い申し上げます。

学士会をご存じですか？

学士会は旧七帝大(北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大)の卒業生・教員・学生からなる、七大学総合同窓団体です。咲耶会の皆さまのご入会をお待ちしております！

学士会会員特典

- 『學士會会報』が届きます。
- 講演会・イベントへ参加できます。
- 「学士会館」会員優待があります。

※「学士会館」は再開発のため、2025年1月末より約5年間休館いたします。

他にも様々な活動が可能です。詳細は学士会公式サイトをご覧ください。
<https://www.gakushikai.or.jp/>

学士会案内が届く準会員(無料登録)制度もございます。

一般社団法人 学士会

〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28
03-3292-5933 / member@gakushikai.or.jp



大阪大学のさらなる国際化の先導役としての大いなる期待



大阪大学 統括理事・副学長
田中敏宏

2024年3月23日に箕面船場阪大前駅が開業し、箕面キャンパスの魅力が一層高まりました。キャンパスの3階に繋がるデッキから駅のホームに降りるエスカレータの途中には、阪大ブルーの色彩を際立たせて描かれた箕面キャンパスの広告が、来年度からの正式採用に先駆けて使用されている大阪大学英語正式名称である「The University of Osaka」の文字と共に掲示されており、市民の皆様にもキャンパスを益々身近に感じていただいていることと思います。モノレールと北大阪急行を乗り継いで吹田キャンパス、豊中キャンパスからも30分以内で移動でき、大阪市内からも最も交通の便利なキャンパスとなりましたので、全学的な活動の拠点としても学内外の皆さんが大いに

活用されると思います。私事で恐縮ですが、私の長女は、大阪外国語大学入学、大阪大学外国語学部卒業という経歴の卒業生です。デンマーク語専攻の先生方には大変お世話になりました。娘の合格発表の日以来、旧キャンパスをはじめ、統合後も様々な国際交流活動を通じて、新旧のキャンパスを訪れる機会が多く、空間的な繋がりに加えて、世代を超えた繋がりにおいても、節目毎にキャンパスが身近になっていることを実感しています。上述の駅の開業直前には、高大連携活動の一環として、次世代を担う大阪府のGlobal Leaders High Schoolの10校の高校生の皆さんが、探究学習の合同発表会の場として箕面キャンパスを利用され、国際性豊かな大阪大学の象徴としての箕面キャンパスを身近に感じていただきました。今後益々、時空間を超えて様々な皆様との繋がりが広がり、箕面キャンパスが中心となって大阪大学の3つのキャンパスの国際化のさらなる推進を先導いただければと思います。



外国語学部長
筒井佐代

この度、4月より大阪大学外国語学部長に就任いたしました、筒井佐代と申します。まずは、皆様へのご挨拶をさせていただき機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

私は外国語学部の卒業生ではございませんが、大阪外国語大学の大学院にて日本語学を専攻し、その後は日本語教育学の分野で研究と教育に携わってまいりました。大阪外国語大学で得た知識と経験、そして先輩や後輩との関係は、私にとって非常に貴重なものであり、その恩恵がなければ、現在の自分ではなかったと言っても過言ではありません。外国語学部長は荷が重すぎる職責ではございますが、修了生としまして、また外国語学部の一員として、責任感を持って務めてまいりたいと考えております。

外国語学部は、多様な言語と文化を学ぶ場であり、その教育と研究を通じて、グローバルな視野を持つ人材を育成する重要な使命を担っています。私たちが直面する国際社会の課題に対応するためには、言語と文化の理解がますます重要となっております。そのような時代において、咲耶会の皆様も、様々な分野でご活躍になり、その知識と経験を社会に還元していらっしゃることに存じます。

今後は、咲耶会の皆様との連携を一層強化し、外国語学部の発展に努めてまいりたいと存じます。卒業生の皆様のご経験やご意見は、在学生にとっても大きな励みとなりますし、学部の教育・研究活動にとっても非常に貴重な財産です。皆様のご協力を賜り、共に外国語学部の未来を築いていければと考えております。

最後になりましたが、咲耶会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。今後とも、大阪大学外国語学部への変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年度 総会・懇親会のご案内

日時：令和6年11月9日(土)午後1時30分～午後6時
会場：大阪大学箕面キャンパス 外国語学講義棟1F
大阪外国語大学記念ホール・大講義室
大阪府箕面市船場東3-5-10
TEL 072-728-2327 (咲耶会事務局直通)

- 箕面キャンパスへのアクセス
- ・北大阪急行線「箕面船場阪大前駅」下車 徒歩約3分
 - ・阪急バス「阪急石橋北口」発「千里中央行」、「箕面船場阪大前駅」下車 徒歩約3分
 - ・阪急バス「阪急豊中駅」発「千里中央行」、「新船場南橋」下車 徒歩約7分

<第I部>

- 咲耶会総会：午後1時30分～午後2時30分
- 「咲耶出版大賞」表彰式：午後2時30分～午後3時
- 講演会：午後3時～午後4時



講師：阿古智子氏 東京大学教授
(大C42 / 中国語学科 1994年卒業)
第24回「正論新風賞」受賞(2024年3月)
演題：「中国で何が起きているのか」

- 休憩 午後4時～午後4時20分

<第II部>

- 懇親会：午後4時20分～午後6時
懇親会会費：5,000円(当日会場いただきます)
- ※ 新卒業生会員(令和6年3月/令和6年9月卒業)
・学生会員は無料です。未加入の学生については、会費として、1,000円をいただきます。
- ※ 卒業後50年の会員には、記念品をプレゼントします。
多数のご出席をお待ちしています。
- 参加ご希望の方は、同封のハガキにてお申し込みください。

<お問い合わせ>

咲耶会事務局 TEL&FAX：072-728-2327
E-mail：sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

外語精神を未来へー後輩へのメッセージ

やりたいことを叶えたい～けどやり方がわからない？ ～僕が語劇祭から学んだある1つの教訓～

松葉大聖

(阪大E13) 2024年3月英語専攻卒業
ダイレクト出版株式会社 マーケティング事業部勤務

後輩の皆さん。「自分がやりたいことを叶えたい!けど、何からすれば良いのかわからない…」とっていない?

将来のために何かしないと…って、思っているけど、Xとかインスタで流れてきた「学生時代にやらないとダメなこと10選」みたいな投稿を見て、全部やらないといけなかな…って、不安になっちゃうよね?

僕はまだ未熟な身ではあるけど、もしやりたいことを叶えるなら、僕が語劇祭から学んだ1つのことを意識したら、良いんじゃないかなと思っている。
てかお前誰?

僕は今年英語専攻を卒業した松葉大聖。正直、僕よりこれを読んでいる後輩のあなたのほうがずっと優秀だと思う。僕の入試の成績は下から5番目。それで完全に自信を無くした。授業中にスマホをいじったり、授業をサボってゲームしたりとダメ学生で、当然、英語力も成績もダメダメだった。しかも、当時入っていた部活でも、先輩と大揉めして退部…そんな感じだったから、3年のゼミ選びでも第一志望のゼミにいけなくて、第4志望だったアメリカ演劇のゼミになってしまった…けど、その時が人生の転機だった。

恩師の岡本先生のもとで、アメリカ演劇に触れ、成績も全部Sをもらえて、演劇にのめり込んだ。それから、阪大の劇団に入ったり、劇の書き方とかを学んだりした後、去年の語劇祭で英語専攻代表として暴れまくったら、色々と好評だったみたいで、英語専攻の先生からは、「3年生からすごく伸びたね」という言葉を頂いた。



職場にて。大好きな洋書に囲まれて。

しかも、嬉しいことに今年も語劇祭に参加したいという英語専攻の後輩が多くて、今年も語劇祭に参加することになった(まだまだメンバー募集中らしいから、いっぱい参加してほしい)。という感じで演劇にのめり込んだけど、その中で1つ、これがなかったら、語劇祭とか色々うまくいかなかったと思っているものがある。

それは…相手を喜ばせることを考えて行動すること。

例えば、語劇祭のメンバーを集める時に、まず英語専攻の学生が何に悩んでいるかを考えた。そこから、考えていくうちに、英語専攻は人数が多いので、3つのクラスに分かれているから縦横のつながりがなくて不満を抱えているという結論に至った(実際に僕も不満だったし、そう思う人も周りに結構いた)。だから、僕はメンバー達が英語専攻や英語というもののでつながりができるよ、それが学生生活で大事な

だよっていうことを1番に伝えて、メンバー内でも縦横のつながりができるように、チームをまとめようとした。その結果、楽しんでくれた人が多かったみたいで、今年も関わってくれることになった。この「相手がどうしたら喜ぶかを考える」ことは、商品や広告がお客さんのためになるかどうかなど、ビジネス全般で常に求められている。

どれだけ自分がいい商品を作った、良いことを言ったと思っても、それが受け取る相手の求めていることとズレたら、信頼関係を作ることは難しい…これが、僕が語劇祭で学んで、そしてこれからは磨いていかないとけない大事なことの1つ。

もしあなたが相手を喜ばせることを考えて行動したいなら、友達や先輩、後輩、お客さんがどう喜ぶかを考えてみるといいと思う。

僕の経験が、あなたの力になれば嬉しいな。



令和5年度 大阪大学 司馬遼太郎記念学術講演会

主催：大阪大学
協力：産経新聞社
後援：司馬遼太郎記念財団
協賛：咲耶会（大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会）

テーマ：
「過去と未来をつなぐ歴史小説の力—
司馬遼太郎生誕 100 周年に振り返る—」

短編映像コンテスト「阪大生、街道をゆく」

講演「歴史小説—どこから来たか、どこへ行くのか—」
作家 佐藤賢一

総合司会：小川真由（アナウンサー、大阪外国語大学国際文化学科日本語専攻卒業）

2023 年は司馬遼太郎生誕 100 周年という記念すべき年に当たり、各地でイベントが開催されたが、大阪大学が主催し、司馬遼太郎記念財団および産経新聞社や咲耶会の協賛を得て、10月14日、司馬遼太郎記念学術講演会が箕面キャンパス1階大講義室で開催された。4年ぶりに入場制限なしで開催された講演会は、「過去と未来をつなぐ歴史小説の力—司馬遼太郎生誕 100 周年に振り返る—」と題され、満席のなか盛大に開催された。

開会後、司会で大阪外国語大学出身のアナウンサー小川真由さんが司馬先生の略歴を紹介し、『風塵抄』から「平和」の朗読があった。きな臭い状況にあって司馬先生の文章は私たちに示唆を与えてくれる。

続いて西尾章治郎大阪大学総長から挨拶があり、講演会に関する概要を紹介しつつ、司馬先生の業績について説明があった。その後大阪大学学生の映像作品コンテスト「阪大生、街道をゆく」が開催された。工学部1年生の宮木祐奈さんの「北千里をあるく。」は、阪急北千里駅から大阪大学吹田キャンパスに向かう三色彩道の美しい風景を紹介した。外国語学部1年生の谷夏帆さんの作品「紅葉坂の追憶」は横浜の桜木町駅から延びる全長 380 メートルの紅葉坂にある歴史的建造物や、横浜港や井伊直弼、彦根藩の話題を盛り込んだ。外国語学部4年生の小倉亮さんの「Nostalgic Labyrinth」は、大阪梅田の中崎町界隈で過去と未来をつなぐ不便な場所に惹かれる若者を描きつつ、映像編集ソフトの機械音など、新技術が盛り込まれた。外国語学部2年生の富田綾子さんの「越前の名勝をゆく」は、宝慶寺、白山神社、現存する最古の天守閣を持つ丸岡城など、司馬さんが歩いた越前の史跡を紹介しながら、『街道をゆく』を読みつつ、「司馬さんと寄り添って歩く」体験を描いた。自身の好きな蕎麦屋など、新旧織り交ぜた街道の映像を制作した。

休憩をはさんで、歴史作家佐藤賢一先生による講演「歴史小説—どこから来たか、どこへ行くのか—」が開催された。佐藤先生は山形県鶴岡市のご出身、東北大学大学院で西洋史を専攻されたのち『王妃の離婚』で直木賞、『ナポレオン』で司馬遼太郎賞、『チャンバラ』で中央公論文芸賞を受賞されている。

講演では、現代社会において歴史小説に関心が高まっているのは社会が迷いを感じているからではないか、という持論を出された。歴史小説が始まったのは近代で、日本でも西洋から紹介されて始まった。佐藤先生は、なぜ小説で歴史を書かねばならないのかという問いを立て、小説を音楽にたとえると、純文学はクラシック、歴史小説は演歌、恋愛小説はポップスになり、日本の歴史小説は、西洋の技法ながらも日本の時代の風味が加わり、舞台を過去に求めることで読者が「ホッと」慰められるからではないかと述べられた。

明治維新の急速な西洋化による疲弊から癒しを求める心理が、演歌や歴史小説につながっているのではないかという。フランスでのデュマによる『三銃士』や、アメリカのカントリー・ミュージックに通底する、古き良き時代の癒しを求める動きではないかということであった。一方、歴史小説と違って、年月日を確定させない「古い時代」というファンタジーで描くのが時代小説であるという。

次に歴史は文学と分けられるか、という問いが投げかけられた。佐藤先生は、歴史が過去の事実、残されたモノ、過去の出来事について書かれた文書で構成されるが、書き手による演出や誇張などの嘘が含まれ、事実の改ざんも起こる問題を指摘した。これについては、ランケが歴史を正確に記述すべきと実証主義を唱えたと説明された。史料批判を通して文学との境界が曖昧だった歴史は歴史学となり、歴史家は歴史学者となり、科学の分野に取り込まれた。これはアートであった歴史が、サイエンスとなった瞬間であるという。明治期に来日して歴史学の学会創立に貢献したリースらによって、歴史学が確立された。一方、歴史が社会のニーズに応えられなくなったとき、アートとしての歴史小説への関心が高まったのではないかという。その後さらに、アートとサイエンスにドクトリン



佐藤賢一氏



（主義、主張）が組み込まれた。歴史的事実に加えて、書き手の主義が優先され、事実を都合の良いように書くという問題が起こった。ランケ自身も復古主義の傾向が強く、「国王万歳」ありきで歴史が語られた。だがドクトリンに基づいた史観は正しい歴史叙述にならず、ドイツによるアリア史観はプロパガンダとなり戦争や暴力に加担したのである。ドクトリンとは頭の中で構築する絵空事であったが、歴史を加味することで事実であるかのように思われたのである。

日本では戦前の史観を反省して、禁欲的ともいえる歴史学が確立され、歴史学が主観を排除する傾向が強くなった。プロパガンダを排除した歴史叙述を求めたとき、司馬遼太郎という作家が存在したのである。史観が期待されたことは、歴史小説の到達点といえる。史観を持ちつつ歴史を書くことのできる歴史小説家が司馬遼太郎であった。学術書を丹念に精読して小説を書くことが求められ、歴史小説家に変化が訪れたのである。佐藤先生は、サイエンスに依る歴史的事実を基にしたフィクションを歴史小説ととらえられた。

刺激の多い講演後、佐藤先生、宮下遼准教授、古谷大輔教授による対談が続いた。佐藤先生は大学院生の時代に小説を書こうとしたが、論文のような小説と、小説のような歴史叙述というはざまに悩まされたという。そこで司馬先生の作品に描かれた「自由さ」が目を見開くような体験となったと述べられた。宮下先生もまた司馬作品の「自由さ」に強く影響を受けたとし、佐藤先生の作品『傭兵ピエール』でフランス人をいじめるイタリア人の姿には、地中海に面したイタリア人とフランス人の言語の共通性を書いている点が興味深いことも指摘された。その中で、話は文明の中心と周縁についてという話題となり、中心と辺境は相対的で、フランスの場合、現在ではパリとブルターニュという姿があるが、歴史小説の中では、作品を書いた時代の都市間の差はなかったのではないか、という点を意識して描こうとしていると述べられた。

また佐藤先生は、歴史の叙述が、小乗仏教的に歴史家が自らを救う営みだったのが、今は大乘仏教的により多くの人に歴史を伝えようとしていく様相になっており、それが歴史の未来だと述べられた。どこへ進めばいいかわからない時に、歴史小説は何らかの示唆を与えてくれるのである。

古谷先生は歴史小説が異世界の話ではなく、自分の話として感じることができる点を指摘された。また宮下先生は、歴史小説によって異なる宗教、異なる時代、異なる価値観を知ることができる良さを重視された。

佐藤先生の描く歴史小説は、戦争や対立などを舞台としているが、歴史小説が「ホッとするところ」であるならば、小説を書くときに何を大切だと思うか、という問いについて、佐藤先生は、戦争を描いても、戦争を肯定したり平和主義を唱えるだけでは解決にいたらず、戦争を描き切ることで好奇心を持つ人に情報を与えることだ、とご自身の描く対象について述べられた。

対談後、ビデオ作品に対する参加者投票の結果、優勝したのは小倉亮さん、準優勝は富田綾子さんであった。

西尾総長から学生のビデオ作品に対する講評をいただき、最後に大内一咲耶会会長よりご挨拶をいただいて講演会は幕を閉じた。



（文責：山根 聡）（写真提供：大阪大学共創推進部社会連携課）

「令和6年度司馬遼太郎記念学術講演会」のお知らせ

令和7年2月15日（土）13:00～16:00、大阪大学箕面キャンパス1階大講義室にて、登録制による対面方式で開催いたします。

テーマ：未定

●学生企画：短編映像コンテスト（予定）

●講演会企画：

講師：澤田瞳子先生（小説家）
2021年、『星落ちて、なお』で第165回直木賞を受賞

●対談企画：

出演者：澤田瞳子先生
門脇むつみ先生（大阪大学人文学研究科教授）
聞き手：古谷大輔先生（大阪大学人文学研究科教授）

※詳細は、後日、大阪大学または咲耶会のホームページに掲載いたします。

大家族の戦後と伯父 陳舜臣の思い出

私が生まれたのは神戸市葺合区(当時)にあった布引の家。戦禍を逃れるかのように引っ越しを繰り返した祖父母の最後の住家であった。私は5歳になるまで祖父母や当時未婚の叔父や叔母たちとともにこの日本家屋で暮らした。陳家は月に一度は祖先の誰かの命日に家族全員が集まっていた。「ツイキー(追善供養)」の対象は11人だったと記憶している。子供のころ、和室の仏壇スペースを台湾の「コンマー(公媽)」風にしたらえた、真っ暗な祖先祭祀の空間の前に、お供えものとともに11膳の箸とオチョコを並べるのが私の役目であった。床の間も台湾風であった。両端に置かれた対の花瓶に花が活けられ、真ん中に鎮座するのは金ぴかの媽祖さんだった。床の間に吊られた巻物の画像は鐘馗だった。

祖父の貿易会社を継いだのは10人兄弟の4番目の私の父であった。舜臣は2番目の伯父にあたる。戦後に伯父が大学を離れて一時期北長狭通の祖父の店で貿易の仕事を手伝っていた。娘の由果さんとは神戸中華同文学校の同級生として9年間同じ学校で過ごした。その関係もあって、舜臣一家の北野町の家、山本通りの家、六甲学院前の篠原伯母野山の家にもよく遊びに行った。うっすらと記憶に残っているのが本で埋め尽くされ、階段の端にも本が積まれていた山本通りの家である。伯父はいつもここにこしていたが、若い頃は人前で話をするのが苦手であった。それが家族評であったと思う。1960年代の中頃のこと。何かの受賞記念にと神戸で講演会があった。その時に、伯母はじめ親族のみながひやひやしなから講演を聞いていたことを鮮明に覚えている。子供ながらにドキドキした思い出がある。

嫁いだおばたちの正月の里帰りに合わせ、新暦正月の2日に全員集合の家族写真を撮るのが習慣であった。祖父母が亡くなるまで続いた。1954年の写真から上のおばがそこにはいない。前年、舞鶴から興安丸に乗って見知らぬ地であるはずの北京に「帰国」したのである。

あまり一般には知られていないが、当時の在日華僑で大陸に渡った約5000人のうち3000人程度が台湾人であり、我が家が特別であったわけではない。陳家の6番目の叔父は生まれてすぐに台北の本家に養子に入ったが、兄弟姉妹全員が神戸で一堂に会したのは1980年代に入り、兩岸関係が改善してからのことである。

私には忘れられない思い出が二つある。新しい百科事典を入手したからといって平凡社の百科事典一セットを譲り受ける幸運に恵まれた。なんと、中から「へそくり」が出てきた。10万円は下らなかったと思う。○巻と○巻と○巻でしよ、といて笑っていた。夫婦そろって大らかだった。もう一つは1997年7月の香港返還を目前に控えた時にニュースステーションに出演した時のこと。キャスターの久米宏が香港返還後の一国二制について伯父に意見を求めた。何度も何度も否定的な見解を期待しての質問であった。伯父は頑なにその求めに応じなかったことが印象深い。ああ、植民地台湾人として育った悲哀をキャスターは分かってない、と私は思った。

伯父は生粋の神戸っ子。様々な国籍と文化を持つ人々がここには住んでいる。シャイながらも多感な伯父は多様な背景を持った人々には実に寛容であった。作品にも表れている。しかしながら、日本で有名になったほどには当初大陸中国でも故郷の台湾でも高く評価されず、終始日本のマイノリティとして日本人に中国文化の理解を促す役割を果たしてきたといえるであろう。唯一台湾を題材にした小説『怒りの菩薩』が台湾の連続ドラマで取り上げられ、故里台湾では再評価の機運が高まった。このことを知らぬまま、鬼籍に入ったことが残念である。



陳 來幸

ノートルダム清心女子大学教授
兵庫県立大学名誉教授
(大E27)



元気な頃の伯父と伯母(1988年金沢にて)

朝鮮語学科創設 60周年記念集会

咲耶会幹事 前田征信(大K16)



11/4 大阪大学中之島センター 9F 岸本忠三交流サロンにて朝鮮語学科創設 60周年記念集会を開催。国立大学初めての朝鮮語学科を生み育てていただいた塚本勲先生をお迎えして卒業1期生から50期生まで64名が集結。上田景勇(1981年卒)幹事の司会にて始まり、先ず、塚本先生から創設時のお話と関係者への感謝のご挨拶があり、出席者からは卒業生一同として塚本先生に対しクリスタル製「感謝証」を、また、全永奈(1985年卒)氏他女性陣から奥様にバラの花束が贈られました。次に卒業生の青野正明(1982年卒)氏、鄭幸子(1987年卒)氏、李達富(1977年卒)氏からの講演があり、中休みのあと第二部がスタート。出席者全員が各自の自己紹介並びに学生時代の思い出あるいは朝鮮語との関わり他脱線気味に時間オーバーしながら進み60年間を凝縮した話題が溢れ感銘深いものがありました。中でも、

朝鮮戦争で幼少期脱北して韓国の名門梨花女子大を卒業後来日され、外大朝鮮語学科の先生の務められた金静子氏からの朝鮮語(ソウルマル)による朝鮮語学科、塚本先生並びに教え子達への溢れる思いと感謝に満ちたお話には会場全体が感動の渦に巻き込まれたと想われるほどでした。言葉を理解しないはずのレストラン責任者まで、「実に感動的な雰囲気満ちたよい集りですね!」と感心してくれたほどでした。次の開催は若手?の星野一路(1989年卒)さんに幹事をお願いして一同再会を期して散会しました。

なお、最後になりましたが、この日のために募集、寄稿された卒業生47名からの「わたしのひとこと」集を独りで編集、製本までしていただいた畑山康幸(1973年卒)編集長には心からお礼申し上げます。おかげさまでよい記念号発行となりました。

朝鮮語学科創設 60周年記念誌『わたしのひとこと』より 半島歌謡とともに半世紀

毎日新聞編集委員 鈴木琢磨(大K30)

隣国のあれこれに首を突っ込んできましたが、彼の地の民のおもしろさは歌にあり、との思いばかり強くなります。でも、あのころは気づかなかった。1978年に上八の門をくぐってからの4年、どれほどの歌に接したやら。民謡「アリラン」「トラジ」。北朝鮮の定番「金日成將軍の歌」「黄金の木リンゴの木を山に植えた」。不思議なことにいちばん親しみやすいはずの韓国歌謡は「サランへ」「黄色いシャツの男」くらいしか浮かびません。李文子先生が「女の一生」を歌ってくれたことはうっすら覚えています。

歳月は流れ、BTSがグローバルな大旋風を巻き起こし、発信地・韓国では空前のトロット・ブームが続いています。鶴橋の「牧野レコード店」の棚に並んだソウルから届くカセットテープに心踊らせていたなんて、もう信じてもらえないかもしれません。いまやインターネットのおかげで、懐メロからガールズグループまで見放題、聴き放題。コロナ禍にあってもユーチューブで好きな



KBS「全国のど自慢」の会場で。手にしているのは女性トロット歌手、ホン・ジユンさんの応援ボード。2023年9月2日、ソウル・獎忠体育館。

トロット番組にかじりつき、つい先日は久しぶりにソウルでKBSの「全国のど自慢」にお邪魔しました。むろん、夜は鍾路3街のナマ伴奏つきラウンジでマイクを握ってまいりました。

そうそう、ずっと会いたかった桂銀淑さんにインタビューできました。やったあー。

【自己紹介】
鈴木琢磨(SUZUKI Takuma) 1959年9月18日生まれ
出身地: 大津市 出身校: 滋賀県立膳所高校
現在: 毎日新聞編集委員 趣味: 歌まみれ、酒まみれ。

学びと成長に満ち溢れたインドネシア留学

外国語学部インドネシア語専攻4年
吉川良雅

しても、すぐに家族のように親しく、そして優しく接してくれるというフレンドリーさや温かさがあることだ。

続いて、留学生活について紹介したいと思う。一言で言うと、私の留学生活は非常に充実していた。留学当初はホームシックになったり、異国での生活によるストレスから体調を崩したり、現地の食べ物が身体に合わず、腹痛によって一日中トイレから離れられなかったりと、非常に苦労していたものの、幸い現地での生活にも次第に慣れていったおかげで、最終的には現地の人々と同じような生活をする、いわゆる「現地人化」するほど現地に適応することができた。現地では本当に多くのインドネシアの友人ができた。私がキャンパスを歩くと、あちこちから私を見つけて名前を呼んでくれるほど、友人関係に恵まれていた。毎日お喋りをしたり、一緒に課題をしたり、色々な友人の家に泊まりに行ったりした思い出は、今でも忘れられない。彼らと積極的に交流することで、インドネシアの様々なことについてより深く知ることができた。そして、インドネシアのみならず、他の国から来た留学生たちとも仲良くなることで、彼らの国の文化についても学ぶことができた。

ロンボク島にて、Sasak族の民族衣装を着て現地の子供たちと交流している様子

私は昨年8月からインドネシアのジョグジャカルタという都市で留学をしていた。ジョグジャカルタはインドネシアで唯一スルタンと呼ばれる王様による王室制度が続いており、特別州としての地位が与えられている。古い歴史と独自の文化があり、「インドネシアの京都」とも呼ばれ、京都市と姉妹都市の関係である。また、多くの大学が集まっており、学生の町でもある。



キャンパスの風景

まず、留学を通して私が直面した文化の違いについて3つ紹介したいと思う。1つ目は、インドネシアでは時間にルーズな人が多いことだ。私はよく大学のイベントに参加しているが、基本的に時間通りに始まることはない。集合場所に時間通りに行くと、誰一人来ておらず、私しか来ていないということがよくあった。当初は時間にルーズな文化に慣れず、腹が立っていたが、次第に自分も彼らに合わせて時間を守らなくなっていった。2つ目は、様々な面で多様性が見られることだ。実はインドネシアは非常に様々な民族が存在する多民族国家である。実際に現地で生活してみると、様々な民族、宗教、言語の人々と出会うことが多々あった。たとえ民族や宗教が異なっても、彼らは仲良く暮らしている。その点で、日本ではあまり感じたことのない多様性を感じることができた。3つ目は、人々がとても温かく、フレンドリーなことだ。インドネシア、特にジョグジャカルタの人々は常に笑顔が絶えない。町を歩けば沢山の人が笑顔で挨拶してくれる。そして、最も驚いたのが、現地の人々はたとえ初対面の相手だったと



ジョグジャカルタのシンボル、Tugu Yogyakarta

最後に、今回の留学で発見した2つのことについて述べたいと思う。1つ目は、日本とインドネシアそれぞれの素晴らしい側面とそうでない側面を知れたことである。これは、1年間現地で生活し、日本での生活との比較対象が得られたからこそだと思う。2つ目は、自分の生まれ育った土地や日本の文化について実はあまり熟知していないということだ。現地の人々に日本の伝統や文化について質問されても、うまく答えられないということが多々あった。彼らとの交流によって、日本人としてのアイデンティティが強まり、日本人としての誇りを持つと同時に、自国の文化について強い興味を持つようになった。これらのことから、今回の留学は、自身が成長し、そして視野を広げることができたという点で、大変有意義なものであると、私は思う。



Nglangeran 山頂にて
インドネシアの国旗と撮った写真

心にともるデンマークの灯

岡本(高橋)奏奈子(阪大J10)



学校近くのビーチで

みなさん、hygge (ヒュッゲ)ってご存じですか？

デンマーク語で「居心地のよい空間」や「満ち足りた楽しい時間」という意味で、他の国の単語では表現できない言葉です。日本語専攻に入学した私は、偶然専攻語としてデンマーク語を学ぶことになるまで、この言葉を耳にしたことがありませんでした。

私が初めてデンマークを訪れたのは2018年夏。北欧独自の全寮制教育機関「フォルケホイスコーレ」に留学しました。みなさんの留学とは違って、何かアカデミックな目的があったわけではなく、思いつくまに行った「遊学」です。しかし、自由を愛するデンマークの人々と過ごした半年間は、私の人生に豊かさをもたらしてくれました。

例えば、ジャズトリオの演奏を、キャンドルを灯した部屋で毛布にくるまって愉しむ夜。顔の大きさの二倍ほどのあるポップコーンの袋を買ってきて友人と映画を鑑賞する週末。天気の良い日には、布団を校庭に敷いて寝てみたり。授業中に教室から出て、太陽の下でコーヒーを飲みながら互いの国の言語を教え合ったり。暖かいオレンジ色の照明の下で、ギターを弾く先生を囲んで、「イマジン」をみんなで歌った学校最後の夜も、懐かしく思い出されます。



ノイシュバンシュタイン城にて撮影

こんな日常が愛おしくて、翌年夏にも農業ボランティアとして再びデンマークへ。キャベツを収穫する箱を椅子にして畑でティータイムを楽しんだり、ハンモックに揺

られて長い夏の夜を過ごしたりと、心が解ける日々を味わいました。

時には一人で、時には大切な人と、ありのままの自分と暮らしを愛する満ち足りた時間。私は日本で暮らしていますが、あの hygge という言葉は、ずっと心の中にあると感じています。しなくてはならないことで頭がいっぱいになったとき、熱い紅茶を入れて、窓を開けます。照明も少し落とします。そうしてカーテンを揺らして入ってくる風を感じる時、デンマークで見た風景が脳裏をよぎるのです。



コーヒーを飲みながら友人や先生と語り合う

私は今、イラストレーターとして活動をしています。その原点となったのが、この留学中の温かい日常を描いた絵日記です。今年の春に人生で初めて開いた個展で披露し、多くの方に見ていただけました。

日本語には存在しない hygge の魅力が文章や絵を通して少しでも伝わり、みなさんの心にほのかな灯をともしることができれば幸いです。



絵日記1

【デンマーク留学イラスト記 書籍】

<https://www.seichoku.com/item/DS2006136>

※絵日記は紙面の関係上、1ページのみ掲載、咲耶会ホームページには全4ページをアップしています。下記 URL より、ご覧ください。

<https://sakuyakai.net/3675/>

2016年4月：大阪大学外国語学部外国語学科日本語専攻 専攻語デンマーク語に入学
2018年秋～2019年夏：大学3年次後期～4年次前期の1年間休学
2018年8月～12月：デンマーク・オーフスの「Odder Højskole」に留学 絵やデザインを中心に専攻
2019年7月～9月：デンマーク・コペンハーゲン近郊のエコビレッジ「Svanholm」にて農業ボランティアアワーカーとして滞在





手の届く世界に小さな違いを作る

KISEKI ltd CEO 山田美緒 (大SH54)

私は今東アフリカのルワンダという国で地域の社会課題解決のためのソーシャルビジネスを行っています。しかし経営者よりも、自転車冒険家としてのキャリアのほうが長く、アフリカとの衝撃的な出会いも自転車を通じてでした。スワヒリ語科在学中にケニアから南アフリカまで8か国5000kmを自転車で単独走破。坊主で胸にはさらし時々ヒゲ。卒業後も会社員として勤めながらも休暇のたびに自転車旅を続け、自転車の会社とスポンサー契約して独立し世界24か国を旅しました。世界中で出会った自転車仲間と四国を走るイベントなども開催してきました。

2016年に夫の仕事の都合で家族5人でルワンダに移住。高級日本食レストランとして職人歴25年の寿司職人とともに高級住宅街に『KISEKI』をオープンしました。しかし順風満帆とはいかず、ルワンダ人スタッフのマネージメント、盗み、裏切り…に手を焼いていました。ある日掃除係の女性スタッフに「あなたみたいな真面目な



シングルマザーを中心とした女性スタッフと無料の託児所で預かる子供たち

お母さんと働けたらなあ」と愚痴をこぼしたところ…翌日50名を超えるお母さんたちが職を求めて店の前に集まっていた(雇うなんて言っていないのに!)。話を聞くと全員が無職または日雇いの仕事を日々探し回っているとのこと。経験なし、学歴なし、技術なし、資格なし、英語はできない…全く戦力にならない人たち。誰が雇うのでしょうか。ただ、彼女たちの必死な姿を見て同じ母として放っておくことはできませんでした。働くところがないのなら私が作ろうと決め、2018年“地域のお母さんが笑顔で暮らせる社会を創る”ソーシャルビジネスとして方向転換をしました。何もできないお母さんたちをプロフェッショナルに育てるために様々な工夫を凝らし、より多くのお母さんに雇用を生み出すために実力が付いたら卒業させました。多くのお母さんがキセキブランドを背負い、一流ホテルやレストラン、国連職員や外交官などのお手伝いさんとしてキャリアを積んでいます。また、

地域にある廃墟だった幼稚園を修理し運営・管理、奨学金の給付などの仕組みを作り、地域の貧困家庭の3～6歳の子ども130名が通える幼稚園として再生しました。

KISEKIでのてんやわんやの経験は非常に学びが多く、あまりに面白いので私が独り占めするのはもったいない。お金を払ってでもこの経験をしたい人がいるのではないかとと思いつき、【1週間500ドル滞在費・食費込みの実践型ボランティアプログラム】として売り出したところ初年度から100名以上が参加する大ヒット。幅広い分野で手厚いサポートの下、自由度の高い活動ができると好評で大学の特別講義や授業、留学プログラムとしても

採用されています。レストランの売上を凌ぎ大きく成長したためレストランは閉店。今は地域の社会課題解決のために全力投球しています。地域の需要と私が“今”できることに徹底的に向き合い、子ども食堂・託児所・ICT教室・妊産婦のケアセンター・職業訓練校を立ち上げるなど支援の幅をどんどん広げています。“世界”は変えられます、貧困も飢餓もなくせます。そのためにはどこが自分の“世界”かを決めること。そこでの課題に徹底的に向き合い間違えても失敗しても裏切られても諦めることなく変わるまで取り組みれば必ず変わります。これからも手の届く“世界”に違いを作っていきます。

プロフィール

KISEKI ltd CEO 山田美緒 Mio Yamada
大阪外国語大学スワヒリ語専攻在学中にアフリカ大陸を日本人女性初単独縦断5,000km。その後世界24か国を自転車で旅する。
雑誌ソトコトの社員として同社がケニアのマサイマラで経営する5つ星ホテル『ムパサファリクラブ』の営業担当、築地本願寺境内のイタリアンレストラン『カフェドシンラン』の立ち上げスタッフとして勤務。その後、企業数社とスポンサー契約しサイクリストとして独立、自転車×ソーシャルな活動を行う。2010年一般社団法人コグウェイを設立、サイクルツーリズムの振興に携わり、100人10か国以上の国内外サイクリストが参加し四国一周するツアーを2011年より5回開催。その業績は各方面で高く評価され池田市観光大使、高知県観光特使、エリトリア共和国観光親善大使に任命される。
現在は3人の男の子の子育てをしながら、ルワンダ屈指のおせっかい母ちゃんとして「お母さんが笑顔で暮らせる社会を創る」ため子ども食堂・託児所・幼稚園・職業訓練校・妊産婦ケア・ICT教育・食育など幅広く活動中。毎年200名以上の日本人が参加するボランティア・インターンプログラムを現地・オンラインで運営。国際協力やアフリカで何かやってみたい人を後押ししつつ、その収益を社会課題の解決に投入するソーシャルビジネスとして国内外から注目を集めている。
著書：マンガと丸坊主(幻冬舎)、満点バイク(木楽舎)、満点自転車(台湾)、バインクルガール(共著、PHP)



縁が繋ぐ日本語の仕事

日本語講師 多武芳恵 (大S40)

マヤ文明というのを耳にしたことはあるだろうか。「古代メキシコ」展では、赤の女王の仮面が展示されていたそうだが、それが出土したパレンケ遺跡は、私が今住んでいるメキシコのチアパス州の北部にある。南部はコーヒーの産地でもあり、榎本殖民団と呼ばれる中南米初の殖民団がかつて到着した地でもある。さて、私は在学中に1年足らずメキシコのグワダハラに留学、1992年にイスパニア語科を卒業、電機会社で働いた後99年に渡墨した。ビーチリゾートホテルで5年ほどサービス業に従事し、現在は乳幼児部・幼稚園併設の小学校と州立大学の国際言語学科で日本語を教えている。

実はメキシコ国内で数度引っ越しがあり、ホテル勤務後、しばらくは育児をしていた。日本の祖父母と日本語で喋れるように、また私自身の母語で話しかけることで心のつながりができるようにと、子どもには日本語で話していた。子どもが言葉を習得していく様子を、時には不思議にも面白いとも思いながら見ていた時、あるブックフェアでメキシコ人の小学生に日本語を教えて欲しいと言われたのが縁で、日本語を教えることになった。

教え方を学ぶ中、多読とも出会う。入門段階から日本語を楽しみながら読む方法として興味を持ち、今は授業に取り入れる一方、多読を広めようともしている。普段私との会話では使わない言葉を自分の子どもが発するのを聞き、本やテレビなど、遊びながら語彙が増えたのではないかと考えたのも多読実行の理由の一つだ。

日本語を教えていて思うのは、言葉は道具であって、その言葉を使って何を伝えたいのか、何を得たいのかが大事だということだ。特に子どもに教えていてそこが難しいと感じる。

また異文化理解という観点からは、日本を知ると同時にメキシコを知る、それもよく言われるイメージで

はなく、実情を知ることが大事だ。そして考えて自分の言葉で話す。どちらがいい、悪いではなく、国民性、文化や歴史などを尊重しあいお互いに学び、共に育っていく関係がいいのではないだろうか。

日本語の学習者が増えているメキシコだが、日本は遠い国だ。易々と遊びに行ったりはできないし、特にチアパスでは日本人に出会うことも少ない。それも友人の協力を得て学習者が日本語で話す機会をオンラインで設けている。またこの3月には大阪大学外国語学部から数名がチアパスを訪れてくれた。とてもありがたいことである。

こうして新たな縁や機会を生み出していくのも仕事の一つかもしれない。メキシコ日本語教師会に地方理事としてこの2年携わっており、そこでも学習者支援活動をしている。

一つお願いがある。今はオンラインで様々なイベントもあるので、一度覗いて世界の日本語学習者と話してみたい。意外と面白いことがあるかもしれない。実は私も時々参加してほかの国の人と話すのを楽しんでいる。

プロフィール

Genki School 日本セクションコーディネーター兼日本語講師、UNICACH(チアパス州立科学芸術大学) 人文学部 国際言語学科 日本語講師



1992年にイスパニア語科卒業。在学中、日墨政府交換留学制度でメキシコに1年留学。沖電気工業で電子部品の企画部や海外営業部で働く。1999年にメキシコに渡る。2000年からLe Meridien Cancun Resort & Spaで、コンシェルジュ兼ジャパニーズ・ゲスト・リレーションズとしてサービス業に従事。2013年に日本語のプライベート授業開始、2022年からGenki School、2023年からUNICACHで日本語講師を務める。NPO多言語多読準会員。メキシコ日本語教師会南部理事(2023年から2年間)。



新しい戦争を防ぐために

『咲耶』(2023年34号)に「戦前大阪外語社研研究会」の記事をみて奮い立った。上本町の校門の脇に「烈士の碑」があり、戦死者が追悼されていたが、この碑は日本軍国主義の尖兵に対する顕彰碑でもあった。逆に、母校に侵略戦争反対の運動のあったことを在学中はもとより、卒業後も絶えて聞いたことはなかった。

早速、入会の手続きを取り、研究会会報(既刊5冊)を送っていただき、その後、研究会事務局長・稲田力氏(大F20)ご上京の際、拙宅の近くで直接お会いすることができた。そして、研究会の第5回総会が5月26日に開催される由のご連絡があり、当日、新幹線新大阪駅に出迎えていただいた稲田氏の車で箕面市船場の新校舎を、上本町の母校を去って始めて、80年ぶりに訪れることができた。

箕面では、かねて「短信」でお世話になっている『咲耶』編集長・井上泰子氏や研究会幹事の南田みどり氏に温



2001年荒川マラソン

かく迎えていただき、新校舎の案内をと、促して下さったが、朝からの移動に疲れ切り、椅子に腰かけたまま辞退した。今ではそれが残念だ。

総会では発言の機会をいただき、私たちの先輩が侵略戦争に反対し、治安維持法の犠牲になった事績を知り、100年を隔ててなお熱い血をかき立てられ、反戦の志を励まされることに思いを致し、この2~3年来言われている「新しい戦前」を「新しい戦争」にしないための不断の努力を、来会者の皆様とともに、払いたいと訴えた。

総会を終え、即日帰京したが、「短信」を機会に懇切なお便りをいただいた是永駿・元大阪外大学長の突然のご逝去により、お目にかかる機会を永久に失ったことが悔やまれる。

帰京すると、6月4日、青野光裕氏(大F8)のお世話で、恒例の東京フランス会が開かれ、他の語科もあわせて15人ばかりの方に、私の長寿を祝っていただいた。

私は例の学徒出陣で1943年秋に母校を去り、44年9月門司港を出帆、11月シンガポール港到着、45年8月スマトラ島で敗戦を迎え、マレー半島で捕虜として約1年開墾に従事、47年10月佐世保上陸・復員し、岡山県津山市に帰郷。2年後に戦前から労働組合運動をしていた義兄を頼って上京。その世話で49年7月から国鉄労働組合に書記として就職、当座の腰掛のつもりが、門前の小僧習わぬ経を覚え、35年勤めて定年退職した。

退職前、1980年に第2回東京女子マラソンを見て発奮、82年の佐倉朝日健康マラソン創立大会以後、ほぼ毎年、マラソン大会に出場、2016年にホノルルマラソン完走まで続けた。



2016年ホノルルマラソン

この間、2012年に第2次安倍内閣が発足し、改憲の危機が迫るなか、岡部太郎氏(大F2、元東京新聞政治部長)、野村光司氏(大蔵省事務次官候補でありながら護憲の節を守って左遷される)と相談、若い仲間の協力を得て「完全護憲の会」を創設、今日に至っている。



元国鉄労働組合書記
「完全護憲の会」共同代表
福田玲三(F21)

スウェーデン語専攻の今 高橋美恵子

大阪大学大学院人文学研究科外国語専攻 教授
外国語学部 スウェーデン語専攻代表

船場東の新キャンパスへ移転して4年目の今年、スウェーデン語専攻は新たなフェーズを迎えています。この4月に南澤佑樹先生が着任し、専任教員は古谷大輔先生と高橋の3人となり、着任2年目のスウェーデン人特任教員ヨーセフ・ヴィークストゥルム先生との4人体制が再開しました。

スウェーデン語専攻の入学定員は18名で、現在約80名の学生が在学しています。1・2年次にスウェーデン語の基礎的運用能力とスウェーデンおよび北欧諸国の歴史・社会・文化に関する基本知識を身につけ、3年次以降は言語、社会、歴史／文化いずれかのゼミに所属します。語学力を基盤に専門分野での学びを深めることを目指す教育の維持・発展に努めています。教育・研究面で協力関係にあるデンマーク語専攻の田辺欧先生によるスウェーデン文学ゼミも開講してきました。

スウェーデン留学への関心は高く、多くが3年次の8月下旬から約10か月間、一部は1月から約5か月間、スウェーデンに滞在します。主な留学先は、部局間学術交流協定校のストックホルム大学(2名枠)とルンド大学(1名枠)、そして全国におよそ150校あるフォルクフグスコラです。コロナ禍の影響を受けたものの、比較的早い段階で留学生の受け入れを再開した同国への渡航を断念せざるを得なかった学生はごく僅かでした。

主体性・多様性・協働性をまさに実践するスウェーデンについて学ぶ立場から、年中行事も学生が中心となり行っています。コロナ禍を除き、語劇祭には毎年2年生が一丸となって参加しています。専攻の伝統行事としていたロシア祭も昨年12月に新キャンパスで初開催しました。今年6月には4年生が中心となり、夏至祭と新入生歓迎会を兼ねた懇親会を催しました。

また毎年のようにスウェーデンや近隣諸国の研究者を招いた講演会等、国際交流の機会を設けています。箕面船場阪大前駅が今春開通し、箕面キャンパスの利便性も高まり、卒業生の来校も増えてきたように思われます。スウェーデン語専攻



を学び舎とされた方々の学年・世代を超えた交流が今後より一層盛んになることを願っています。



ペルシア語専攻の今 竹原 新

大阪大学人文学研究科外国語専攻 教授
外国語学部 ペルシア語専攻 教授

なんと100年である!大正14年(1925年)に大阪外国語学校印度語部の研修語としてペルシア語が開講されてから、来年で100年目を迎える。実は、この原稿の執筆依頼をいただき、何か話題はないものかと探していて気がついたことなので、私もえらそうなことは言えないのだが、キリがよく、なんとなくおめでたいので、ここで皆様と共有しておきたい。特に開講100年目の催しをする計画はないのだが、機会がある度に話題にしたいと思う。

本学におけるペルシア語教育の歴史を紐解けば、その後、昭和24年(1949年)にペルシア語が研究科目となり、昭和36年(1961年)に大阪外国語大学にペルシア語学科が設置され、ほぼペルシア語専攻の形が定まり、大学統合などを経て今に至るということになる。私が入学してからの30年余りの間だけでもそれなりに色々なことがあったのに、100年というのはなんとも気が遠くなるような年数である。

現在のペルシア語専攻の専任教員は、竹原、ジェイ先生、中村先生で、特任教員がレザーイーバグビーディー先生である。今年度の入学者数は17名で、専攻語としての規模としてはペルシア語学科が設置されて以来、大きくは変わっていない。

また、2021年のキャンパス移転に伴い、ペルシア語専攻も、粟生間谷の旧キャンパスのB棟7階から、箕面船場の新キャンパスの外国語研究講義棟8階に拠点を移している。新しいペルシア語共同研究室は南東角にあって、二面に大きな窓がある。日当たりの良いペルシア語共研のイメージは、期せずして、今も同じである。

学生たちのペルシア語劇に対する熱い思いは引き継がれており、毎年、個性的な演劇を見ることができる。卒業生の皆さまも、語劇祭や研究会などの機会に、新しいキャンパスを訪れてほしい。

次は目指せ200年、と言いたいところだが、一日一日が大



ペルシア更紗の展示(8階)の前で

切であることは言うまでもない。まずは、明日の授業でも学生の皆さんと一緒に、地道に、そして、元気に学びたいと思う。



ペルシア語共同研究室にて

是永 駿 元学長が逝去されました



令和6年1月27日、是永 駿先生（元 大阪外国語大学学長・大阪外国語大学名誉教授）が急性心筋梗塞のため逝去されました。（享年 80）

先生、安らかに眠ってください

大阪大学名誉教授／元 大阪大学外国語学部長 **杉本孝司**

是永先生の訃報に接し様々なことが走馬灯の如く頭を一気に駆け巡りました。すでに私自身も大学を定年退職して早 10 年以上が過ぎますが、その退職までの約 10 年（あるいは実際には、それ以上の長きに亘ってであったかもしれませんが）是永先生には大学運営や執行部との絡みで、何かとご助言を頂く機会が多くなり、その意味で大変お世話になったこと、大変感謝申し上げます。相談内容の具体的なことは何も申せませんが（というかすでに忘却の彼方に忘れ去ってしまったことも多くありますが）、先生はいつどんな時も、眼光鋭く真剣に私の相談内容や悩みに耳を傾けて下さり、適切なアドバイスをくださったこと、今でも昨日のこのように記憶し感謝申し上げます。またその一方で、話が日常のことになると笑み満面に楽しそうに会話して下さったことも楽しい思い出として私の脳裏に刻まれております。話が真剣な内容であれ、楽しい内容であれ、どんな時も相手の目を見つめて真剣に話し、時には笑い、時には眼光鋭くこちらを見つめられる、そんな先生のお姿が今も忘れられません。どうか安らかに眠ってください。

「死は生の対極としてではなく、その一部として存在している」

大阪大学人文学研究科外国語専攻 教授 **深尾葉子**

夜半に開いたメールに突然飛び込んできた信じられない文言。つい数か月前、大学院博士課程の宋さんが報告された戦前大阪外語社研究会の場で、驚くべき正確さと詳細にわたる記憶に基づくコメントを多数披露されていた。そのご様子に、きっとこの先生は 90 を過ぎてても 100 歳になるまでこのように頭脳明晰でますますお元気でいらっしゃるに違いない、その若さとお元気の秘訣は一体何だろう、と驚嘆したばかりだった。私が大学に入学した 1981 年当時はおそらくまだ 30 代

で、学生たちは同じ中国文学担当の相浦先生とともに「あいちゃん、これちゃん」と親しみを込めて呼んでいた。俗世を離れたような孤高の詩人のような御様子と、時折ほころばせる親しみやすいエピソードが印象的であった先生。あまりの唐突なお別れに、語りつくせぬ思いが次々と去来するけれど、おそらく同じ思いを持つ人たちがこれから是永先生のもとに引き寄せられ、旧交をあたためる場を紡いでゆくのだと思うと、それも先生のまだまだ終わらぬ人生の新たなステージなのかもしれない、と思えてくる。ふと林少華による村上春樹の『ノルウェイの森』の有名な一文の中国語訳が思い浮かんだ。

死并非生的对立面，而作为生的一部分永存。

どうか先生、これからも我々後進を見守っててください。

卒業生の寄贈作品をご紹介します

2024 年 2 月 20 日、友禅画家のあだち幸氏（英語 1967 年卒）から 3 点の作品が寄贈されました。1 点は「この世は美しい」で、箕面キャンパス最上階の「もみじラウンジ」に展示されています。氏は、「いのち」をテーマに、友禅染の技法で絹地にさまざまなほけの姿を描いています。この作品は自らの理想とする世界を描いたものです。



もう 2 点は、「コクーン／生きていくこと」と「コクーン／生まれること」で、一対にして、3 階のエントランスホールに展示されています。コクーンとは繭玉のことで、蚕たちの白くやさしい宇宙を表現しています。

氏は、ルーブル美術館にも出品したことがあり、その作品は、壬生寺、聖護院、仁和寺、唐招提寺、円照寺、大聖院等、数々の名刹に奉納されています。他の卒業生の寄贈作品とともに、新キャンパス訪問の際にはぜひご鑑賞いただき、心癒されるひとときを過ごされてはいかがでしょうか。

2010 年発行の『咲耶』21 号の「菜の花」には、「いのちきわみなし」の一文をご寄稿いただき、東京支部の支部便りでは、度々表紙を飾っていただきました。

言葉と文化の架け橋

大阪大学外国語学部モンゴル語専攻 2 年 2024 年度 語劇祭実行委員会 委員長 **中山 列**

今年度の語劇祭実行委員長を務めさせていただきます。今年度は、モンゴル語専攻 2 年の中山 列です。今年、新駅の開設により、外国語学部全体が新たな風を迎える年となりました。あいにく、今年度は夏祭りが中止となってしまいましたが、その分、語劇祭をより一層盛り立ててまいりたい所存です。



大阪大学外国語学部の語劇祭は、旧大阪外国語大学からの流れを汲む、80 年もの歴史と伝統を誇る、素晴らしい行事です。各専攻語の学生がその言葉で劇を上演するこの語劇祭は、学びの枠を超え、様々な意義を持っていると私は考えます。

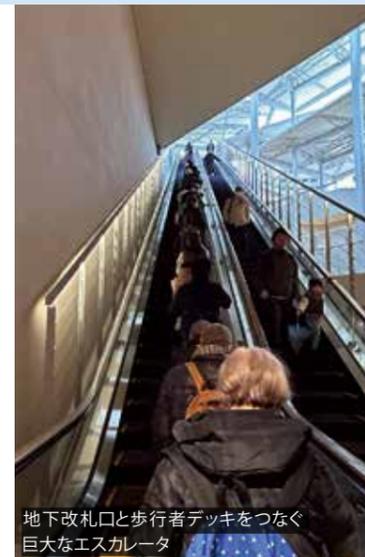
なかんずく、語劇祭は学生たちにとって実践の場として非常に貴重です。教室で学んだ言語知識を実際に使いこなすことで、発音や抑揚、表現力など、教科書だけでは身につけられない技能を磨くことができます。また、役を演じることで感情やニュアンスを伝える力も養われます。

さらに、語劇祭は文化理解の深化にも大いに寄与していると思います。劇の内容は多くの場合、その言語圏の文学作品や歴史的出来事などがテーマとなり、私たちは言葉だけでなく、

北大阪急行「箕面船場阪大前駅」が開業しました

大阪船場（大阪市中央区）を拠点としていた大阪船場繊維卸商団地協同組合が移転し、箕面市に「船場」の地名が誕生して約 50 年。2024 年 3 月 23 日は Osaka Metro 御堂筋線「本町（船場西）駅」と北大阪急行「箕面船場阪大前駅」が鉄道で結ばれ、大阪船場と箕面船場が一本の線でつながる歴史的な日となりました。

箕面市では、北大阪急行電鉄南北線が延伸し、「箕面船場阪大前駅」と「箕面萱野駅」が開業するにあたり、3 月 23 日（土）の開業当日から 2 日間にわたり、新駅周辺を会場に、開業祝賀イベント「北急延伸記念 みの新駅開業の祭典」が開催されました。延伸線の開業を、市全体で盛大に祝い、記憶に残る機会とすることを目的とし、開業記念グッズの販売、箕面ゆかりの特命大使や地元学生などが出演するステージプログラム、盛りだくさんのブースの展開など、地域が一体となって、祭典は大いに盛り上がりました。23 日（土）には、「文化芸能劇場大ホール」にて、



地下改札口と歩行者デッキをつなぐ巨大なエスカレーター



箕面船場阪大前駅改札口



大阪大学の掲示板

オープニングとして主催者挨拶や延伸線開業までの軌跡の放映、お祝いの「能楽」が披露されました。

開業から半年近くが経ち、改札口から地上 2 階のペDESTリアンデッキまで直通する長いエスカレータを上り、文化芸能劇場、図書館・生涯学習センターの入る複合公共施設の通りをまっすぐ歩けば、箕面キャンパス 3 階のエントランスに到着、すっかり馴染みの通学路となりました。駅前広場とキャンパスにつながるメインデッキは、学祭やイベントで使用、箕面市民と阪大外国語学部生とのかけがえのない交流の場となっています。

その背景にある文化や価値観も深く学ぶことができます。これにより、異なる文化を理解し、尊重する心が育まれるのだと、痛感しております。

そして、観客の皆様にとっても、語劇祭は異文化を身近に感じる絶好の機会です。日本にいなが様々な国の言葉や文化を体験できることは貴重であり、異文化理解の第一歩となります。劇を通じて伝えられる物語や感情も、言葉の壁を越えて多くの人々の心に響くことと思います。このような、外国語学部の語劇祭が、80 年間も続いてきたことは、関係者すべての努力と熱意の賜物です。この伝統を守り続け、次世代の学生たちにも貴重な経験を提供し続けることが大切だと考えております。そして、語劇祭が、学問と文化交流の架け橋としての役割を果たすことを祈っております。

さいごに、未来に向けて、この素晴らしい伝統がさらに発展し、多くの学生や観客に感動と学びをもたらし続けることを心から願っております。外国語学部の語劇祭は、言葉の学びの枠を超え、人と人、文化と文化を結ぶ大切な存在であり続けることでしょう。

11/23、11/24、ぜひお越しください!!

語劇祭実行委員会一同、そして各専攻語参加者一同、一丸となって取り組んでおります。心より、お待ちしております。

着任のメッセージ



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
ベトナム語 特任講師
NGUYEN THI NGOC THO
グエン ティ ゴック トー

本年の4月に新たに大阪大学に着任いたしました。30年余りベトナム語教育に携わってまいりました。外国語に興味がある上に熱心な外国語学部の学生にベトナム語やベトナム文化の魅力を伝えることを嬉しく思います。グローバル時代の異文化コミュニケーションに少しでも役に立つために、学生たちとともに頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



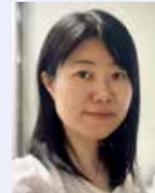
大阪大学人文学研究科 外国学専攻
ヒンディー語 助教
虫賀 幹華
むしが ともか

ヒンドゥー教について、民衆の実践を中心に研究しています。2019年秋にインド留学を終え帰国してから、どこか満たされない日々を過ごしていましたが、この4月からはヒンディー語とインド文化にどっぷり浸かることのできる幸せを感じています。これからが楽しみです！



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
アラビア語 特任講師
AZZA SHBL MOHAMED ABOU EL-ELA
アッザ シブル ムハンマド アブルイラー

My name is Azza Shbl Mohamed Abou El-Ela. Since April 1 of this year, I have been working as a lecturer of Arabic at Osaka University. Prior to this role, I was a professor at Cairo University in Egypt, where my research primarily centered on linguistics and discourse analysis. I look forward to continuing this research focus while working at Osaka University.



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
トルコ語 助教
海野 典子
うんの のりこ

私の研究テーマは、中国・旧ソ連領中央アジアのイスラームや民族問題（特に回族やウイグル人の歴史・文化・社会）です。マイノリティ問題全般、世界の食文化などにも関心があります。学際的かつ国際色豊かな箕面キャンパスの皆さんとの交流を通じて、教員としても研究者としても精進してまいりたいと思います。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
スウェーデン語 助教
南澤 佑樹
みなみさわ ゆうき

2024年4月に着任した南澤佑樹と申します。自身の母校である大阪大学に勤務できることを大変嬉しく思います。専門はアイスランド語やスウェーデン語といった北欧言語で、現在は特に語の意味の観点から研究を行っています。日本の北欧語学の基盤を少しでも固めていけるよう精一杯努力してまいります。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
英語 助教
近藤 佑樹
こんどう ゆうき

どうもはじめまして、大阪大学人文学研究科外国学専攻の近藤佑樹と申します。今年度、再び母校に戻ってまいりました。現代アメリカ文学・文化、とりわけフィリップ・ロスの作品を専門としております。これからもどうぞよろしくお願いたします。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
イタリア語 助教
柴田 瑞枝
しばた みずえ

2024年4月に着任いたしました。私の専門はイタリア現代文学で、近年は20世紀の女性作家パオラ・マシーノと戦時下の検閲の関係について研究しています。大阪大学の活気溢れるキャンパスの様子に、いつも元気をもらっています。どうぞよろしくお願申し上げます。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
英語 特任講師
FALK ADELIA
ファルク アデリア

My name is Adelia Falk, and I have been a lecturer of English at Osaka University since April 1 of this year. Most recently, I was a lecturer of English at Kyoto Sangyo University. I am interested in second language acquisition research related to vocabulary, extensive reading, and learner autonomy. I have recently also become interested in the challenges and opportunities presented by AI tools to language education. I hope to continue to pursue these interests while working here.



大阪大学人文学研究科 外国学専攻
スペイン語 特任講師
PÉREZ RUIZ Mónica
ペレス ルイス モニカ

東アジアで9年間スペイン語を教えてきました。スペイン語教育を通じてスペイン語圏の文化を共有する可能性を今年からは日本にも広げることができ、その機会をいただいた大阪大学に感謝しています。スペイン語に興味のある皆さんを全力でサポートしますので、これからよろしくお願いたします。



大阪大学人文学研究科 外国学専攻 マルチリンガル・エキスパート養成プログラム 特任助教
中村 瑞樹
なかむら みずき

自分を育ててくれた母校の教育に携わることができ、心より嬉しく思っています。特任教員ですので、長居できないのは残念ですが、短い期間だからこそ、その間にしっかりと外国語学部へ恩返しできるように、後身の育成に全力を注いでまいります。

部活動の広場



「時空を超えた集い」

外大ギター部 OGOB 会 諏訪 忠泰 (大S 19)

2023年10月シェラトン都ホテル大阪(上六)「金剛の間」で開催

4年前コロナ禍で外出も儘ならない状況下、Eメールの活用で会員の対象を全国、上八学舎卒の元部員全員に拡大して、ギターを通じた交流を図りたいという趣旨で、このOGOB会を再結成しました。これまで、名簿の整理、大学時代のギターとの思い出を綴った寄稿集、

定演プログラム、合宿・定演の写真を纏めた「思い出のアルバム」などの作成により、年次の離れた同士のメールによる交流が徐々に広がり、その結果今回の集いが実現しました。関東から九州まで計26名が、懐かしの上六の地に集結。

参加者は1960年から1972年まで入学年次に12年の開きがあり、初対面或いは半世紀ぶりの再会の方々が多かったものの、“ギター”を通じて直ぐに打ち解けた雰囲気になりました。最年長の奥田和彦さんのご発声で乾杯、全員懐かしい部のテーマ曲「ファルレーカ」を6人の有志が再現、中には当時を思い出して涙ぐむ方も居ました。その後、全員が部活の思い出や近況について「ひと言」挨拶、今もギターを弾いているメンバーのソロ披露、当時の定演の録音をBGMで聴きながら、予定の2時間を30分超過、その後も場所をラウンジに移し、談笑が続いた楽しいひと時でした。

この機会がなければ会えなかった先輩後輩の交流も実現した、まさに「時空」を超えた出会いの場となりました。

文責：(世話人) 諏訪忠泰(大S 19)、岡本 修(大S 20)、吉野 博夫(大M 22)



ベリーダンスサークル誕生物語

滝澤(百々) 真弓 (大A53)

「ベリーダンス教室行かへん？」きっかけは友人Yのこんな誘いだったと記憶しています。

エジプト人は歌と踊りが大好き。パーティー等で音楽が流れ出すと、皆陽気に踊り出します。20年前エジプトに留学していた友人は、そんなエジプト人の姿に自分も一緒に踊りたい!とベリーダンス教室に通い始めました。同じ時期にエジプト留学中だった私も友人に誘われて一緒に習い始め、二人ともベリーダンスの虜になりました。友人はこの楽しさをもっと広めたいと、帰国後に

同級生や後輩を誘ってベリーダンス部を結成し、空き教室でダンスの練習を始めました。遅れて帰国した私も合流し、こうして友人の思いつきと行動力によってベリーダンス部の活動が始まったのです。

その後、ベリーダンス同好会として夏まつりと間谷祭に出演し、私の卒業後も後輩たちが活動を引き継いでくれて、彼女たちの尽力のお陰で同好会はサークルに昇格しました。結成から20年たった今でも活動が続いていることは本当に嬉しく有り難く思っています。

一つ心残りなのが「ハラーワート」というサークル名。最初の夏まつり出演で団体名が必要になり、候補に挙がったのがアラビア語の「ハラーワ(حلاوة)」という言葉。この単語には「甘いもの・可愛らしさ・魅力」という意味があり、「可愛い」が沢山溢れるグループという意味をこめ、この複数形である「ハラーワート(حلاوات)」と名付けました。しかし本来この単語に複数形は存在せず、文法的には誤りなのですが、当時は一度きりの出演になると考えていたので、この位の誤りは大目に見てもらおうとこの名前に決めたのです。そのサークル名が今も変わらず引き継がれているのは外国語学部OGとして大変恥ずかしく、できるなら現メンバーの方々にもっと素敵で文法的に正しい名前をつけ直していただけないかと願っております。

◆告知板◆

◆受勲者・受賞者のご披露

●令和6年春の叙勲 瑞宝中綬章

福原信義氏 (大阪大学名誉教授) (大A14)

●モンゴル国政府国家勲章「科学上級研究員」章

塩谷茂樹氏 (大阪大学大学院人文学研究科教授) (大M33)

2023年9月15日、オランパータル市で開催された国際会議の席上、長年にわたりモンゴル語の形態論・語彙論、及び口承文芸、さらには方言学の分野で、モンゴル語研究の発展に多大な貢献を行ったことが評価されたことにより受章。

◆令和5年度退職教員

加藤 均 日本語日本文化教育センター 教授

渡邊克昭 人文学研究科 教授(英語)

米田信子 人文学研究科 教授(スワヒリ語)

PRIETO MUÑOZ BEATRIZ 人文学研究科 特任講師(常勤)(スペイン語)

霜田洋祐 人文学研究科 講師(イタリア語)

拓 徹 人文学研究科 助教(ヒンディー語)

HOANG ANH THI 人文学研究科 特任講師(常勤)(ベトナム語)

ABDELRAHMAN ELSHARQAWY 人文学研究科 特任准教授(常勤)(アラビア語)

HOFMEYR MICHAEL FREDERICK 人文学研究科 特任講師(常勤)(英語)

田所朱莉 マルチリンガル・エキスパート養成プログラム 特任助教(常勤)

BURENIA YULIA グローバル日本学教育研究拠点 特任講師(常勤)



暇人による文芸

外国語学部ドイツ語専攻3年 田邊仁一朗

箕面キャンパスの片隅にある小さな部室の机の上に、一冊のノートが置いてあります。そのノートには、気ままに部室を訪れる部員たちが、日常でふと思ったことや、人生相談、はたまた何の脈絡もない絵まで書き込んでいます。

私たちは年に数回部誌を発行していますが、主な文芸活動はこの小さなB5のノート上で行われていると

いっても過言ではないでしょう。誰かが俳句大会を勝手に始めると、皆が思い思いの俳句を書き残し、誰かが愛についての問いを書き込むと、1か月にわたり大激論が紙上で交わされたこともありました。

このようなやりとりはすべて手書きの文章やイラストによって行われるため、自分の意見を書き込むには多くの時間を必要とします。

つまり、私が言いたいことは、このような書き込みを行う部員は間違いなく暇であるということです。暇でなければ、愛について数ページにわたって真剣に書き連ねたり、非常に精巧だが何を意図しているのかさっぱりわからない絵をひたすらノートに描き続けるようなことはしません。そしてそのような「暇人」が、芸術において重要なのだと思います。余暇が芸術を作るのです。偉大な芸術家であるギリシア人たちがかつてそうだったように。

私たちの部誌は恐らく箕面キャンパスのどこかに置かれていると思います。ぜひお手にとって、屈指の「暇人」たちによって紡ぎだされた文章を堪能してもらえればと思います。




咲耶会 ニュース

令和5年度 咲耶会総会のご報告

令和5年度咲耶会総会が母校の創立記念日に当たる11月11日(土)、箕面新キャンパスの大阪外国語大学記念ホール・大講義室にて開催されました。長引くコロナ禍がようやく収まり、4年ぶりに、表彰式、講演会、懇親会を含む、本来の形での開催となりました。会場出席者83名、委任状提出者88名、計171名で、遅ればせながらの「創立100周年記念総会」となりました。

第一部の総会では、令和4年度の決算報告と令和5年度の予算案を承認。入会者が年々減少しているのが大きな課題ですが、年会費・賛助金収入ともに前年度を上回り、何とか黒字を維持。3年続きでプライマリーバランスの達成が可能となりました。

本部役員の選任では、藤本和貴夫幹事(大R12)と大森久美子幹事(大DM36)が退任。4名の新幹事が選任されました。新幹事については、P23でご紹介しています。

第二部前半では、第8回「咲耶出版大賞」の表彰式が行われ、東明彦選考委員から選考結果を発表。賞状と副賞授与の後、大賞受賞者の松田武氏、特別賞受賞者の生田美智子氏に、作品の概要、受賞の感想等を述べていただきました。

後半の講演会では、国際ジャーナリストの春名幹男氏(大D17)に、「日米関係を『和の思想』で見直す」のテーマで、綿密な資料をもとに貴重な講演をいただきました。氏は2021年に第6回「咲耶出版大賞」の大賞を受賞。コロナ禍により表彰式はなく、今回、3年越しの講演依頼に応じていただきました。

第三部の懇親会では、来賓として大阪大学統括理事・副学長の金田安史先生をお迎えし、ご挨拶いただきました。JAZZ研究部 desafinado の演奏、語劇祭実行委員長と夏まつり実行委員長のスピーチ等、若い世代の活力で盛り上がり、世代を超え、和気藹々とした交流の場となりました。(文責:井上泰子)

会費のクレジット決済をご活用ください

2018年4月から、咲耶会では会員の皆さまからの会費、賛助金を少しでもご協力していただきやすくするために、クレジット決済を導入しています。年々、会員が増加し咲耶会活動にかかる予算も増加する中、皆さまのご協力、ご支援で咲耶会活動の活性化と母校支援を充実させていきたいと存じます。海外からのお支払いも便利になりましたので、海外支部の皆さまには、ぜひご活用いただけますよう、よろしくお願いいたします。詳細は、咲耶会ホームページをご覧ください。

このクレジット決済は咲耶会のデータ管理、名簿作成で長年業務委託している株式会社サルトのシステムを利用していますが、クレジット決済に関するクレジット情報はSMBCGMOPAYMENTにのみ残るシステムで運用していますので安心してご利用ください。

※ご利用いただけるクレジットカードは、VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、DINERSです。

※咲耶会ホームページから、クレジット決済ページへアクセスすることができます。

<咲耶会ホームページ> sakuyakai.net

なお、2019年度から、会報『咲耶』賛助金を、会報以外の多目的に活用させていただくため、単に「賛助金」といたしております。皆さまの温かいご理解のもとご支援よろしくお願ひ申し上げます。

コンビニエンスストア・郵便局でのお支払いに関する留意点

●振込用紙のコンビニバーコードでスマホ決済が可能になりました。
◇2022年度よりコンビニ用バーコードをスマートフォンの以下のアプリで決済できるようになりました。ご利用方法につきましては各アプリのホームページでご確認ください。
◇ご利用可能なアプリ: PayPay、auPay、LINEPay、PayB

●郵便局での窓口現金振込の手料が廃止されました。
◇2024年1月22日(月)以降、郵便局から現金でお振込みいただく場合、振込人負担として110円が加算されていた振込手数料が廃止されました。この料金は、2022年1月17日に導入されたものです。今回の改正により、窓口やATMで現金で支払う場合も、通帳またはキャッシュカードにより口座から支払う場合も、同一の料金となります。

毎年、当会より会員のみなさまへ送付する同窓会報に振込用紙を同封しています。お手元に届きました振込用紙をご利用ください。払込手数料は、当会が負担いたします。ご利用いただけるコンビニエンスストアは以下のとおりです。



■振込用紙は下記の3種類を同封しています。
③については、別紙となっています。
①年会費3,000円のみ送付用(郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
②年会費・賛助金一括送付用(年会費3,000円、賛助金一口3,000円、計6,000円を一括してお送りいただけます。郵便局、コンビニエンスストアのどちらでも使えます。)
③年会費3,000円+賛助金2口以上の一括送付用(郵便局でご使用ください。金額欄は空欄です。年会費と賛助金の合計額をご記入ください。)
振込用紙を紛失した方は、郵便局もしくはクレジットカードでの払い込みをお願いいたします。(コンビニエンスストアでの払い込みはできません。)

新入生ウェルカムパーティ2024 を開催しました

若手活性化委員会／在学生支援委員会委員 後藤 峻 (夜 F42)

咲耶会主催の「新入生ウェルカムパーティ」が恒例行事となってきました。今年も全体で50名を超える新入生、上回生、卒業生、先生・職員の皆様と3時間程度の交流会を行いました。今年は4月27日(土)の開催となり、入学後の各種オリエンテーションが終わり、授業や部活・サークルなども始まった後の日取りとなったため、どの程度新入生が集まるかが読めないなかでの開催でしたが、例年どおりの人数の方に参加いただけよかったです。



会の内容は、テーブル毎の自己紹介、箕面キャンパスの見学、全体での交流会。終始和やかで参加者みなさんから笑いのこぼれるような会となりました。参加されていた新入生の方からは「人見知りで、上手く自己紹介できるかわからなかったけれど、初めて会う他専攻の人とも楽しく話せたことがうれしかったです」という感想もいただきました。

外国語学部に関わる様々な立場の人が一堂に会して交流する機会は一年を通して珍しく、準備は大変ではありますが、開催後はその意義を感じられて「開催できてよかった」と思える会となりました。一方で、この会が単発のものになっている課題感もあります。参加された学生の方が、咲耶会の取り組みに関心を持ち、また卒業後には「同窓生の立場から次の新入生や現役生を盛り上げるような一役を担いたい」と思ってもらえるよう、継続して関わり合う機会を咲耶会として企画していく必要があるのだろうと感じます。

咲耶会 ワインを楽しむ会

若手活性化委員会委員長／在学生支援委員会委員 福山泰海 (大 H59)

2023年4月1日を初回にワインを楽しむ会を始めて以来、4ヶ月に1回のペースでずっと開催してきました。ちょうど7月27日のイベントで4回目になります。イベントの趣旨は、年齢や経歴を超えて、咲耶会のメンバーが親睦を深めることです。これまで少ない時で10名程度、多い時で30名近くの参加がありました。フレンチのフルコースを食べながら、持ち寄りのワインをシェアするスタイルで運営しています。席に着き、ワインを交えて、ゆっくり食事をすると、初めての人でも自然と会話が深まります。またフレンチという性格上、人が多くても楽しく、少なくとも失敗感がありません。それでいて、1人4,000円前後と高くはないです。とても継続性が良い運営スタイルだったなあ、と改めて初回設定の良さを感じています。



さて、集まりを続ける中で見えてきた事は、咲耶会は大阪を拠点とする団体でありながら、人間関係を広げ、また深めていく親睦会としての集まりは特になかった、もしくはコロナのせいで途絶えていたように思います。せつかくです、大阪にいる意味として、また咲耶会の存在意義として、学生、職員、卒業生の和を作るものになればと思います。今後も4ヶ月スパンで継続開催しますので、よろしく願いいたします。



“談論風発”こそ「咲耶茶論」の神髄

講演会・勉強会組織委員会 委員長 深川泰博 (大 E16)

コロナ禍の影響で、これまで約4年間休止を余儀なくされていた「咲耶茶論」が、今年1月13日に、大阪大学箕面キャンパスの2階・学術交流室で行われました。講師は当会の副会長・青木伸也氏(大 TV28)で、演題は、「価値の外交：外交政策と国民外交—1980～2019年 外交官としてアジア太平洋諸国に在勤して」。

青木氏は1980年、大阪外国語大学タイ語学科卒業後、外務省に入省。その後シンガポールやタイに赴任。直近では駐サモア日本国特命全権大使を務められました。

講演では同氏の40年に亘るアジア太平洋諸国での外交官勤務に基づく体験を通じ、今後の日本外交の取るべき進路を提言。すなわち「地球上で唯一の被爆国であり、戦災・地震・津波等諸災害を乗り越えてきた日本国民の叡智が、世界の人々との普遍的価値観を通じた連携にイニシアティブをとり、世界の求心力となる価値の外交(外交戦略及び国民外交)が必要」と説く。



久しぶりの対面での茶論のためか、30名を超す聴講者が参集され、青木氏の基調講演のあと、活発な意見交換・質疑応答が展開されました。

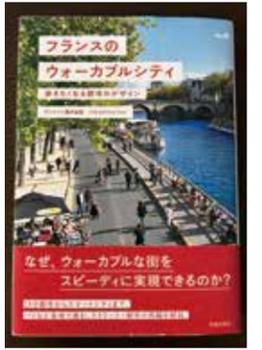
中には昨年、著書『自発的隷従の日米関係史：日米安保と戦後』で第8回「咲耶出版大賞」を受賞された松田武氏(大 E18 / 大阪大学名誉教授)もおられ、少し違った観点からの持論を展開されたり、他の聴講者もそれぞれの意見を開陳し、まさしく当茶論が目指す“談論風発”の様相を呈し、熱気と満足のうちに終了しました。

第9回 咲耶出版大賞

選考委員 青野正明 (大 K30 桃山学院大学教授)

2023年に刊行された出版物を対象とする「第9回咲耶出版大賞」の大賞に、ヴァンソン藤井由実氏(大 F26)の『フランスのウォーカーブルシティ：歩きたくなる都市のデザイン』(学芸出版社)が選ばれた。特別賞は該当なしである。とはいえ、選考対象の作品は、学術書、実用書、翻訳、自伝など多彩な8点であり、同窓会の層の厚さと同窓生のご活躍を目の当たりにした。個人的には、選考は知的刺激が得られて多くを学ぶ機会でもあった。大賞に選ばれたこの著書では、15分都市からスマートシティ

まで、パリなどフランスの8都市の事例が取り上げられ、ウォーカーブルな都市づくりの実践が紹介されている。それは都市空間を再編する実践で、歩行者空間を創出し、自動車交通の抑制と自転車道・公共交通の整備をおこない、これにより道路空間の再配分をおこなう、といった内容である。



そして、著者はその実践を紹介するに当たり、ウォーカーブルシティの方法論とともに、政治的・社会的・財政的・歴史的な背景の説明も加えている。それは、フランス人がなぜそのような街づくりを考えたのかという問いに対して、著者がそれに答えようと努めた現れと受け止められる。

書物としても、実践の紹介書でありながら、文献資料や統計、地図などにもとづく論拠が手堅いと思われる。また、フィールドワークを最大限に活かして、写真や図版・地図などを多用することで臨場感を生み出し、幅広い読者に向けて読みやすい工夫がなされている。カタカナ用語に立ち止まることもあるが、興味深く引き込まれるように読めて、総合的に上手に仕上げた著書といえるだろう。本書は咲耶会の皆さまに広くお薦めできる作品である。

2025年版「同窓生名簿」作成のお知らせ

同窓生名簿編集委員会

咲耶会では、4年毎に「同窓生名簿」を刊行しています。前回は2021年10月に刊行されました。今回は2025年10月に発刊の予定です。母校創立100周年から4年、2024年3月には北大阪急行の延伸工事が完了しました。「箕面船場阪大前」駅の開業により、新キャンパス移転後の母校は、新しい学術、文化の拠点としてますます発展しています。同窓生の交流の機会もさらに増えそうです。同窓生名簿がお役に立つことと思います。

前同様、名簿作成の専門業者であり、プライバシーマークを取得しているデータ整備専門会社(株)サラト(兵庫県姫路市)に調査・編集・印刷・発行を業務委託して作業を進めます。

この会報『咲耶』35号と一緒に「確認ハガキ」を同封しています。名簿掲載内容のご確認およびご予約にご協力ください。入会金未納の会員様には別途頒布価格を設定しております。下記参照ください。

データの整備された「同窓生名簿」は、母校、同窓会の最大の財産です。より正確な名簿作成のため、何とぞご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【名簿の内容】

- 収録者：学校創立から現在までの同窓生約51,900名
- 発行日：2025年10月
- 頒布価格：7,000円(入会金未納会員頒布価格12,000円)
- 名簿作成協力金：10,000円

弁護士 大水 勇

TMI 総合法律事務所 大阪オフィス
〒530-0017
大阪府大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビルオフィスタワー36階
Tel: 06-6311-0577 / Fax: 06-6311-3978(代表)
e-mail: iohmizu@tmi.gr.jp http://www.tmi.gr.jp
東京/名古屋/神戸/大阪/上海/北京/ヤンゴン/シンガポール
ホーチミン/ハノイ/フロンペン/シリコロン/ロンドン

古典芸能案内人 II E 17

文楽、落語、歌舞伎の面白さを伝えます。

天野光 (本名・天野豊子)

AMANO HIKARU

文楽、落語、歌舞伎のセミナー依頼受付中。古典芸能案内人で検索!!!

アメブロ: <https://ameblo.jp/koten-geinou-guide/> 古典芸能のススメ: <https://artcoordinator.com/>
e-mail: kotengeinou@nike.eonet.ne.jp フェイスブック: amano.hikaru.2



～新役員紹介～



中島裕司
(大 DM24)

この度、幹事として微力ながら咲耶会のお手伝いをさせて頂く中島裕司です。デンマーク語学科卒、現在は関西ハンガリー交流協会事務局長として尽力しています。卒業後は、大阪市大で法律、最終的にはテンペラ画で博士号(大阪芸大大学院)を取得。大阪芸大で非常勤講師をしながら画家が本職のようになってしまいました。いかにも外語卒の多様性。よろしくお祈りします。



須佐多恵
(大 R36、院 R20)

この度咲耶会の幹事を拝命いたしました。大阪外国語大学箕面キャンパスで学び、現在大阪大学で非常勤講師をしております。卒業して幾年月、世の中はずいぶん変化し、人々の生き方や価値観に大きな多様性を感じる昨今です。同窓生の絆をどう繋いでいくのか、今ほど同窓会の役割が問われる時代はないのかもしれませんが。微力ながら会の発展に少しでもお役に立てればと思っております。



植草美香
(大 B40)

卒業して32年、子どもたちも巣立ち、孫の成長が楽しみな年齢になりました。部活の先輩や同期とは今でも交流がありますが、誘われて行った同窓会が縁で今まで以上に大阪外大(大阪大学)のOBの皆様や現役の学生さんとの繋がりが出来ました。大学を卒業してもこの素晴らしい縁を幹事として皆様の力を借りて広げていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



岡本淳子
(比較大48、院前南欧4、院後言語8)

幹事として会報『咲耶』の編集に携わることになりました。大阪外国語大学で学部(2年次編入)、博士前期・後期課程の長きにわたり多くを学ばせていただきました。現在は外国語学部で教壇に立ち、異文化への柔軟な姿勢が外大時代から今の学生に引き継がれていることを日々目にしております。会の発展のためにお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

令和5年度 決算報告 (令和5年7月1日～令和6年6月30日)

決 算		(単位: 円)
収 入	入会金収入	1,150,000
	年会費収入	4,502,890
	賛助金収入	3,636,480
	咲耶広告収入	278,000
	名簿及年史収入	12,800
	総会収入	290,000
	雑収入	50,478
	合計	9,920,648
支 出	援助金	300,000
	事業費	801,816
	運営費	3,947,545
	咲耶作成費	2,761,370
	咲耶通信費	1,749,937
	合計	9,560,668
収支差額		359,980

期首正味財産(前期より繰越)	37,103,446
期末正味財産(次期へ繰越)	37,463,426

令和6年度 予算案 (令和6年7月1日～令和7年6月30日)

予 算 案		(単位: 円)
収 入	入会金収入	2,000,000
	年会費収入	4,800,000
	賛助金収入	2,700,000
	咲耶広告収入	243,000
	名簿及年史収入	12,800
	総会収入	400,000
	雑収入	64,200
	合計	10,220,000
支 出	援助金	300,000
	事業費	910,000
	運営費	4,010,000
	咲耶作成費	2,900,000
	咲耶通信費	2,100,000
	合計	10,220,000
収支差額		0

期首正味財産(前期より繰越)	37,463,426
期末正味財産(次期へ繰越)	37,463,426

つどい

貝田守先生(大阪外国語大学名誉教授(民法学))
ご夫妻を偲ぶ会の開催



貝田先生は2019年10月26日にお亡くなりになり、すぐ翌年4月に先生を偲ぶ会を行う予定でしたが、コロナ禍が続き延期を重ねてきました。その間奥様恵美子様も3年後の2021年10月にお亡くなりになり、今回(2023年9月24日)ようやく貝田守先生ご夫妻を偲ぶ会を、ゼミOB・OG約20名にて、ご遺族のご息女、ご息女である貝田理様、貝田卓様、日昔真美様ご臨席のもと開催致しました。(於: ホテルグランピア大阪)

貝田守先生は、大阪大学法経学部法学科から1956年同大阪大学大学院法学研究科民法学専攻を修了され、下関市立大学を経て1969年4月に大阪外国語大学に民法・法学ご担当として着任されました。1969年度東大入試中止の煽りを受けた大阪外国語大生が多いなか、1970年度に貝田民法ゼミナールが発足、私どもはすぐ参加、受講させていただきました。1995年先生が退官されるまで、ほぼ全語科出身の75名が巣立ち、裁判官や、大学で法律の教壇に立っておられる多くの方、国家公務員(上級職、国税庁、外務省等)、地方公務員(県庁、市役所、教員等)そして銀行をはじめ民間企業等々の分野に育っていきました。大阪外国語大学法学部と称する学生もいました。

貝田先生が瑞宝中綬章を受章された際は、2010年3月にその祝賀会をゼミOB・OG約35名参加の下、大阪シェラトンホテルで開催しております。ゼミOB・OGは現在「貝遊会」として懇親会を続けております。 文責: 阿部博司(大 M21)

「Born In 1963」 外大軽音楽部 OB OG 久保田哲也 (大 IN35)

2023年11月5日わたしたちは、「還暦」を迎えた仲間を中心としたライブを開催いたしました。正式なOB OG組織の存在しない外大軽音楽部は、SNSを通じたゆるやかな繋がりを活かしたライブを、ここ10年ほど年に一回のペースで無理なく続けていますが、今回は還暦という大きな節目でもあり、卒業以来の再会となる中村昌志さん(大 E34)、福田浩康さん(大 DM35)、そして普段は都内近郊で弾き語りライブを開催している余語泰さん(大 A36)が参加して、バンドスタイルでの演奏を披露してくれました。こうした再会の一方、ライブ直後に古くからの仲間との突然の別れに見舞われ、「Life Is A Series Of Hellos And Goodbyes」であることをしみじみと感じました。さて、この号が出るころには今年のライブ開催が近づいております。題して「Highway 423 Revisited」。2024年11月3日、

会場は江坂TwinReverbです。詳細は、X(旧Twitter)「大阪外国語大学軽音楽部卒業生掲示板@OUFSLMC2020」で発信中。気の置けない仲間たちが集い演奏する機会は、とても貴重な一瞬かもしれません。OBOGのみなさん、是非ライブ会場へ遊びにいらしてください。お待ちしております。



『咲耶』の縁、80年ぶりの母校再訪
戦前外語社研研究会 稲田 力(大 F20)

『咲耶』前号、「つどい」欄に掲載していただいた「結成5年戦前大阪外語社研研究会」の記事がきっかけになって、100歳と91歳のOB(いずれも東京在住)とご縁ができました。

おひとりは1944年9月、大阪外事専門学校フランス科卒の福田玲三さん(100歳、F21回)。学徒出陣のため、学業を1年半で切り上げ南方戦線に送られました。

5月26日に箕面キャンパス大阪外大記念ホールで開いた研究会総会に出席いただきました。実に80年ぶりの母校再訪でした。福田さんは「在学中も卒業後も社会科学研究会の存在を知らなかった。100年前の先輩たちの苦難の歴史を偲びながら、『新しい戦争』を防ぐために努力を続けていかねばならない」と話されました。



もうおひとりは、1957年スペイン語科卒業の中川清さん(91歳、大 S5回)です。エスペランチストを中心に『大阪外語・外大の人々』を会報に寄稿いただきました。初代校長の中目覚、『エスペラントの父 ザメンホフ』(岩波新書)の著書のある伊東三郎、その盟友の栗栖継(この2人は外語社研のメンバーでもあった)、「石浜文庫」で皆さまご存じの石浜純太郎(敬称略)ら、外大の歴史を彩ったエスペランチストの系譜を詳しくたどっておられます。中川さんは「戦争と外語」のテーマでも執筆中で、会報で順次掲載させていただく予定です。

連絡先: gaigo.shaken@gmail.com

フィリピン語 40周年の集いを開催 高畑 幸 (大 E39)



2024年、フィリピン語科・専攻は設立40周年を迎えました。これを記念して2024年2月23日(祝)の午後、大阪大学学士会館連絡事務所にて「大阪外国語大学・大阪大学フィリピン語40周年記念の集い」を会場(対面)とオンラインで同時開催しました。会場には関東、中部、関西から18名が集い、オンラインでは日本各地、フィリピン、アメリカから12名の参加がありました。フィリピン語科初代教官の津田守先生(大阪大学名誉教授)、卒業生であり現任教員でもある宮原暁先生(現在、大阪大学大学院人文学研究科教授)、1980年代後半に非常勤講師をしていた玉置泰明先生(元・静岡県立大学教授)を囲んで卒業生たちが集まり、学生時代の面影を探しながら各自の近況に耳を傾けました。定年間近の方、働き盛りの方、ご家庭で忙しい日々を送る方等、会場参加者に加えてオンライン参加者とも話は尽きず、あっという間の3時間でした。

ヒンディー語科の同窓会 兼 高橋先生の古希祝い 福山泰海 (大 H59)



2024年4月27日にヒンディー語科の同窓会に合わせて高橋先生の古希祝いをしました。思い立った理由は、コロナの自粛期間中に失った活気と出会いを取り戻したいと思ったからです。やるからには「盛大に!」と心に決め、大学時代の恩師や友人に楽しく会える場を考えました。「盛り上げたい!」と思った時、集客方法として思いついたのが「アイドルと記念日」です。アイドル=恩師、記念日=古希祝い。イメージがわかればアイデアが生まれ、共同作業を通して準備も後日談も含めて楽しみが膨らみます。

1万円という高めの会費設定ではありませんでしたが、寄付金のみでの参加も含めると70名近くが参加し、その日のためにインドとアメリカから帰国する人もいる程の盛況ぶりでした。場所は中之島センター。一次会はその最上階で講義。二次会はサロンを貸し切りでパーティ。三次会は各自思いの友人と場所で歓談。後日にはその動画配信や写真アルバムの共有。また有難いことに余剰金が15万円ほど生じたので、それは大学への寄付とヒンディー語のスピーチの賞金として学生支援に役立てようと思います。来られなかった人や未来の学生に向けてもいい同窓会になったと思います。

支部は昨秋、仙台市内のホテルで大場百合さん(大崎市、中国語)、高橋啓介さん(宮城県庁、フィリピン語)が集まり、「三人寄れば文殊の知恵」の会合。今年7月には初のビアパーティを同市内の屋上ビアガーデンで開催、旧交を温めました。同窓会、万歳、万歳、万歳!

東京支部 樽井一仁 (大 R23)

東京支部 ビアパーティ

7月21日(日)銀座ライオンで、東京支部のビアパーティを開きました。コロナ禍で2020年~2022年の間は中止していましたが、昨年から再開しました。酷暑の中、体調を崩す方が多く、キャンセルが12名に達しましたが、59名集まりました。

- ・59名の内、女性の参加者は13名
- ・2000年以降の若手卒業生の参加は14名
- ・大阪大学の卒業生(外国語学部以外)は9名、東京外大卒業生は4名



今回は、ビアパーティの案内を従来の東京支部メールマガジン、「月例講演集」に同封する案内に加えて、咲耶会ホームページ、SNSでも案内しましたので、初めて参加される方や若手の方が多かったようです。また、この3月から開始した「外語サロン」(若手会員対象のワンコインでの懇親会)の参加者も4名おられました。

「盛大で楽しいビアパーティありがとうございました。久しぶりに懐かしい方々にも会えて嬉しかったです」「とても楽しい時間が過ごせました」等の声もありました。

外大グリー OB 5名と大阪男声2名と一緒に「遥かなる友に」を合唱し、最後に外大グリーのクラブソング「Gaigo will Shine」と校歌を歌って幕となりました。

来年は、会場を代えて参加費用も抑えて100名以上集まるビアパーティにしたいと思っています。

長野支部 山西敏博 (院後言社8)



2018年度より山陰両県の支部、19年度からは長野支部の統括を拝命しております、山西敏博です。コロナ禍がある程度落ち着き、同窓会も盛り上げようと、長野支部では支部長を中心に孤軍奮闘しております。2019年より長野県内に「長野支部」を新設し、2019年8月に初の「長野県支部設立記念同窓会」を中信(信州中央)地域・松本市にて開催しました。140余名中13名のご参加を頂きました。以来2020年度(東信:上田市)では3名、2021年度(北信:長野市)には7名、2022年度(南信:諏訪市)には4名、そして2023年度には一巡して再度中信:松本市にて5名が参加していただきました。コロナにめげずに5年連続の開催をしております。その中では、2021年度まで3回連続ご参加を下さった大先輩がおられました。大変残念ながら2023年度はご逝去されましたが「咲耶会に出るのが、主人の楽しみでした」というお声を頂き、感無量でした。

名古屋支部 白岩 修 (大D19)

令和5年~令和6年度名古屋支部活動状況

名古屋支部総会を今年6月8日(土)にホテル ルブラ王山で開催致しました。21名の方が出席されました。

皆様にはまず、咲耶会「年会費」と「賛助金」の御礼を述べ、咲耶会の財政状況が非常に厳しく、持続可能な運営をするために、これからも引き続き「年会費」と「賛助金」を宜しくとのお願いをしました。又、名古屋支部の恒例でもありますが、全員の自己紹介と近況報告をして頂きました。本会ではゲストスピーカーとして大門正幸氏(大E34、1986年卒、集合写真前列右から4人目)をお迎えし、「人は死なない~150年の科学研究と考察が明らかにした命の仕組み・人生の意味」と題し、大変興味深い講演をして頂き、参加者一同大変感銘を受けました。



来年の名古屋支部総会は令和7年6月14日(土)を予定しています。

当支部では、恒例の昼食懇談会をコロナの影響で中止していましたが、ようやく昨年9月9日(土)に開催することができました。その後、12月9日(土)、今年3月9日(土)に開催しています。本年度は9月14日(土)、12月14日(土)、3月8日(土)に開催を予定しています。毎回、10名前後の参加を得て、政治・経済問題、外交問題、趣味など諸々の話題で楽しい会となっています。是非一度、ご参加ください!お待ちしております! これら総会並びに昼食懇談会の告知のために名古屋支部メーリングリストの活用と、本部の協力も得て、Facebook、ホームページでもご案内をしております。

名古屋支部では本部並びに東京支部からいろいろ有意義な情報を頂いています。名古屋支部ではそれら情報を会員の皆様にメールでご連絡をしています。その為、メーリングリストの充実は不可欠なので、愛知県在住の方は是非、私宛にメールアドレスのご連絡を宜しくお願い致します。又、現在三重支部はないので、三重県在住の方も私宛にメールアドレスを連絡して頂ければ、いろいろな情報をメールでお送り致します。最近では、これら有意義な情報をドイツ語の方にも連絡をしております。ドイツ語の方で情報が欲しい方は、私宛にメールアドレスをご連絡ください。宜しくお願い致します。

最後になりましたが、大阪大学外国語学部のホームページも是非、ご覧ください。

連絡先:名古屋支部長 白岩 修
TEL & FAX: 052-806-7873 携帯: 090-4865-8172
E-mail: shiraiwa1123@yahoo.co.jp
以上宜しくお願い致します。

支部だより

東北支部 黒木一吉 (II E10)

ブラボー、トピックス

コロナ禍が概ね明けて東北各地も冠婚葬祭が対面で行われ、誠に嬉しい限り。今号では東北支部のトピックスをお知らせ致します。

山形県山辺町。昨秋11月の「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」(山形大学など主催)で、公文国際学園高一年の岡島花蓮さん(神奈川県)が最優秀賞を獲得。ベルギーやフランス大使を務め、アジア人初の常設ICJ初代所長を務めた安達博士を顕彰するイベント。平和な社会実現を訴えた岡島さんは、昨春急逝された東京支部長・久保義昭氏のお孫さん。10歳で英検1級に合格した才女の活躍に泉下の祖父も大いに喜んでいてことでしょう!

今春2月、宮城県大崎市の第51回田尻クロスカントリー大会。高田真紀子さん(横手市役所、大C47)の次男翔真さん(小6)が小学男子団体で見事優勝、個人部門でも第3位。ブラボー、今後の活躍に期待!

支部だより

岐阜支部

丹羽宏造 (大IN7)

11月4日 岐阜駅 横。レストラン「ラ・ローゼ・プロヴァンス」にて。支部懇親会開催 9名参加。ゲストスピーカーに岐阜近郊の山登りの達人、八代竜也さん(大 DM26)に依頼。和やかな雰囲気の中の会合でした。支部の大きな課題：壮年の会員参加を促す努力。今年度も11月2日に同じ会場で懇親会を催す予定。

奈良支部

佐柄保夫 (大C26)



奈良支部はホテル花小路の6月例会に、サンスクリット語研究会の講師である東大寺上之坊の平岡昇修元住職に「大仏再興 江戸時代の奈良」の講話をして頂きました。

東大寺大仏は過去2回戦火に遭い、江戸時代、修二会の失火で焼失した二月堂が僅か2年で再建されたことから、公慶上人が「天下の仏心を集めて一仏」とする諸国勧進をして金一万両を集め、百年間野晒しであった大仏殿を6年かけて修復。松尾芭蕉は37歳の公慶に出会い、「水取りや 籠りの僧の 杵の音」を詠み、苔むした句碑が残る歴史を知りました。

この1年の例会は、外大卒生によるアフリカのビジネス奮戦記・滞在回想記、パレスチナ問題、女人跣の中国骨董遍歴、中国人元私大教授の「アムール川、サハリン紀行」、賛助会員の「盲ろう者の介助員体験」発表のほか、高松塚古墳解体やモアイ像修復で文化庁長官表彰、吉川英治文化賞を受けられた("自称"中卒の石工職人)左野勝司氏には「歴史の石を動かす」と題して講話をして頂きました。

現在出席者は11期生が約半数の同期会のように、米寿以上の方が2名です。

丹波支部

梅垣 誠(大E31)

かく申します私、この3月までの2年間、地元の自治会の組長をやっておりました。一昨年の5月のある日、ウチの斜め向かいに引越してきたと、三柳さんという若いご夫妻が挨拶に来られました。人が減ることはあっても増えることはめったにない田舎ですので、これは朗報と早速、組で歓迎会を開催することに。この席上で伺いますに、ご主人はケベックシティのご出身で、三柳さんは京都のご出身とのことでした。お二人の会話はフランス語。三柳さんにフランス語がなぜそんなに堪能なのか聞きますと「大阪外大フランス語学科の出身なんです(大 F53)」と！ な、なんと同窓ではないですか。こんな事があるのかと驚きました。



昨秋、コロナ禍で数年開催できずにいた丹波市支部の集まりにはご夫婦で参加して頂きました。今回の参加者は6名。フランス語が母語で、英語はその8割くらい、日本語は初級履修中程度(失礼!)のご主人に合わせて会話はほとんど英語で。三柳さんは、いつもなら通訳に忙しくておちおち食べていけないけど、この時ばかりは余裕で食事を楽しめたとのことでした。丹波という田舎にある、屋号も文字通り『田舎家』という小料理屋だったのですが、英語で話す私たちに「こんな田舎の居酒屋で英語で話をなさるなんて」と仰天なさっていました。さすが外大ということでしょうか。

そしてこの席で伺ったのですが小橋昭彦さん(大 P35)が来る11月の丹波市長選挙に立候補なさるとのこと。

また、このたび私が丹波市支部の支部長をさせて頂くことになりました。宜しくお願い申し上げます。

香川支部

森本勝幸 (大S15)

ここ数年はコロナ禍が続き、会合が開催できない状態になりました。苦肉の策として「紙上懇親会」と銘打って同窓会の会員の方々からハガキ一枚に近況報告、詩、俳句等を送って頂き、事務局で貼り付けて冊子にして会員に送り返すことも行ったりして、会員相互の連携の保持をはかっていたりしましたが、やっと令和5年8月19日(土)に、高松市の名庭園である栗林公園の北門近くのKANEMITSU CAPITAL HOTEL(旧ラポール讃岐)で支部総会を開くことができました。



前列左より 三谷(大E9) 竹内(大P31) 黒田(大E14) 大鷹(大P15)
後列左より 森本(大S15) 佐々木(大IP38)

コロナ禍があけた最初の食事会でしたが、面と向かってお互いの顔の表情を見ながらの身の上話に花が咲き、楽しい懐かしい会合となりました。

その時、咲耶会香川支部の運営に長年ご苦労され、大変な貢献をされた「小野先生」に対して心からの感謝を表すために横断幕とうちわを会員有志が作って来てくださったので、集合写真と一緒に載せて小野先生にもお届けしました。

愛媛支部

垣生千春 (大IP40)

コロナ禍を経て、久々の愛媛支部総会を開催いたします。お忙しいところ恐縮ですが、ご出席いただける方は10月27日(日)迄にご連絡ください。

日時：11月16日(土)12:00~ 場所：松山市内

連絡先：垣生 携帯/SMS:090-8286-8341

又、愛媛県大会及び、旧帝大七校の親睦会である愛媛七星会も総会を再開しています。ご興味のある方は、併せてご連絡ください。よろしくお願いたします。

宮崎支部

木崎宣博 (大PB42)

宮崎支部は、令和5年11月18日に宮崎市内の居酒屋「八九」にて、同窓会を開催しました。



参加者は戸高昭彦さん(大C12)、黒木國益さん(大IP14)、弓場照美さん(大F19)、川野道生さん(大B22)、笹原敬生さん(大IN27)、近藤哲二さん(II S10)、木崎宣博(大PB42)、米田健一さん(II S22)の8名でした。

コロナ明けということもあって、皆さんリラックスした雰囲気でお話を花を咲かせていました。また、支部会長が近藤さんから木崎へ交代しました。近藤さん長い間大変お疲れ様でした。

ニューヨーク支部

石田佳子 (大D29)

阪大・外大同窓会 NY 地区では新年会、折に触れての集まりがありましたが、北米同窓会総会はコロナ禍以来オンラインにて総会を開催しておりました。他の地区でも夫々対面での開催は既に行っております。今年は4年振りに10月19日 LA 地区(場所未定)にて対面での総会を開催する運びとなりました。

マニラ支部

塩野泰章 (大PH49)

マニラ支部の懇親会は平日夜に行われることが多いのですが、先日は土曜日の開催だったため、高校生の娘を連れて一緒に出席しました。懇親会では、支部メンバーの皆さんから次から次へと様々な話題が繰り出され、時には鋭いツッコミや爆笑している姿を見て、娘も緊張が解けたらしく、おいしい食事と楽しいお話でとても居心地がよかったです。また普段、



社会人と接する機会があまりない中、各分野でバリバリ活躍されている皆さんの仕事の話だけでなく、くだけた話題で着飾らない姿も間近に見て、良い刺激を受けたと思います。

マニラ支部は配偶者や子供たちもウェルカムでアットホームな雰囲気があり、ダイバーシティ&インクルージョンが自然とできていると思います。フィリピン文化自体がマレー、中国、スペイン、アメリカなどの文化が融合して、それぞれの要素を上手く取り入れており、マニラ支部もフィリピン文化の影響を受けているのだと勝手に解釈しています。

卒業後、様々な環境にいる方が心地よく過ごせる場を提供できることは、同窓会がそれぞれの地で根付き、未永く存続するための一つの鍵となると思います。

北京支部

高橋咲代 (阪大C5)

大家好(皆さんこんにちは)!

北京支部では、3か月に1回程度懇親会を開催しております。毎回様々な中華料理を囲み、時には白酒も楽しみながら、仕事や生活の近況、出張や旅行で行った中国各地の話題等で盛り上がっています。



2023年のニュースとしては、写真に写っております北京支部の新しい旗を作成しました。大阪外国語大学のロゴと大阪大学外国語学部のロゴを使用し、スクールカラーのえんじ色を取り入れたものとなりました。作成にあたっては、北京支部の先輩方、また咲耶会事務局の皆様にもご協力いただき、誠にありがとうございました。

懇親会は大阪外国語大学、大阪大学にゆかりのある方はどなたでも歓迎しており、ご家族と一緒に参加して下さる方もいらっしゃいます。支部だよりをご覧の皆様、北京にご赴任の際には是非ご連絡ください。

(連絡先 wechat ID: sakiyo333)

支部だより

バンコク支部

阪本法子 (開発・環境大 47)

2023年から2024年前半も、タイ在住の大阪大学・大阪外国語大学同窓生の交流会、毎年恒例の東京外国語大学との合同クリスマスパーティー/ゴルフコンペ外大戦、関西7大学交流ゴルフコンペなど、さまざまなイベントで交流の機会を持ちました。



2024年5月開催の関西7大学交流ゴルフコンペ



2023年12月開催の東京外国語大学との合同クリスマスパーティー

大阪大学や大阪外国語大学にゆかりのある方々を中心に、学部、国籍問わず、歓迎しております。外国語学部、基礎工学部、工学部、法学部、日本語日本文化教育センターなど、様々な組織に在籍していた方々が参加して下さり、とても楽しい会合になっています。タイらしく、どなたでも気軽に楽しんでいただける雰囲気のおこなっておりますので、ご興味のある方は、osakagaidaiykk@yahoo.co.jpにご連絡ください。

イスタンブル支部

坂本恭典 (大 R40)

昨年2月のトルコ東南部地震災で大きく被災したハタイ県クルクハン市を支部有志で訪問し、在イスタンブル駐在員有志と一緒にコンテナハウスを寄贈しました。復興事業も進んでいますが、いまだに仮設住居での生活、仮設店舗での営業を余儀なくされる被災者の方は多くおられます。今回寄贈したコンテナは菓子販売店と食料品・日用品販売店として活用される予定です。



懇親会



被災地で寄贈したコンテナハウス

2020年発足のイスタンブル支部では本年も懇親会を開催、情報交換の場としています。今回は在イスタンブル、アンカラの東京外大の卒業生にも参加していただき、多くの学びと気づきのある有意義な機会となりました。新たに駐在される方、トルコにお住まいの方(まだまだいらっしやると期待しております)、ご参加をお待ちしております!

イタリア支部

田中佳代子 (大 IT38)

イタリア支部は現在のところ女性のみの少人数です。オンラインでおしゃべりしたり、最近ラインのグループを作りメッセージを交換しています。昨年はミラノ在住のメンバーが日本のテレビに出演したニュースで盛り上がり、卒業生の活躍の様子、イタリア語科の教授の出版物のお知らせなどを共有したり、日常のちょっと困っていることを相談したりしています。イタリア各地に散らばっていますので、なかなかどこで集まるのは難しいのですが、いつか実現させたいと思っています。卒業生でイタリア在住の方、是非ご参加くださいませ。ご連絡をお待ちしております。

|||||支部総会・イベントのご案内|||||

■令和6年 東京支部総会 *対面・オンラインのハイブリッド型
日 時/ 2024年10月20日(日) 12:00~15:00
会 場/ 学士会館 203号室
会 費/ 5,000円(2008年以降卒業者)
7,000円(2007年以前卒業者)

■令和7年 東京支部新年会 *対面・オンラインのハイブリッド型
日 時/ 2025年1月11日(土) 15:00~19:00
会 場/ 二松学舎大学1号館
新春放談会: 401会議室、懇親会: 13階レストラン
会 費/ 5,000円

■名古屋支部 令和7年名古屋支部総会
日 時: 令和7年6月14日(土) 12:00~14:00
会 場: ホテル ルプラ王山 2F 葵
会 費: 5,000円(和洋弁当と飲み物)
講演会 講師: 吉田春生氏(大 D18、ドイツ語学科1970年卒業)
申込先: 名古屋支部長 白岩 修
TEL & FAX: 052-806-7873 携帯: 090-4865-8172
メール: shiraiwa1123@yahoo.co.jp
申込締切: 令和7年5月10日(土)

■岐阜支部 同窓会
日 時 令和6年11月2日(土)
受付開始 11時30分
会合開始 12時
場 所 JR岐阜駅横 じゅうろくプラザ内
レストラン「ラ・ローゼ・プロヴァンス」
Tel: 058-262-0156
会 費 ¥5,000

大阪外国語大学 ロシア語学科 第4回(1956年)卒卒業 玉木功一さんに「ウクライナとロシアの民族的、歴史的関係」と題する卓話を頂きます。ご期待ください。
玉木功一さん略歴: 大阪外大卒業後 外務省に入省
在ロシア、ソ連日本大使館等に勤務
平成8年定年退職後 関西外国語大学にて教鞭を執り平成18年同大学退職

■愛媛支部総会
日 時: 11月16日(土) 12:00~
場 所: 松山市内
連絡先: 垣生 携帯/SMS: 090-8286-8341
申込締切: 10月27日(日)

短 信

総会出欠ハガキの短信用からの転載です

福田玲三 (F21)
咲耶 34号で先輩の反戦活動の事跡を初めて知り、戦前外語社研究会に連絡をとりました。

松永通温 (IP25)
今後ともよろしく。

調子 肇 (IP26)
現在90才半ばですが、同期の中島宏二氏(元グアテマラ名誉領事)と数年に亘り、書信交換のみで身辺状況、健康状況を発受信、種々激励を頂いております。

岸田正昭 (E26)
外専卒業後、京都大学に進学した。12名中存命者4名は毎年会っている。

奥村義寛 (IP27)
満93才になりましたが、自動車運転免許更新しました。3年後さらに更新するか?返納するか?その時になって決断します。

本多謙一 (大 E1)
元気にしています。

日臺(中村)松子(大 F1)
NHKの外国語講座(英・仏・独・伊・西語)を楽しんでいます。

吉田由也(大 E2)
93才になり足も不自由になりましたので、欠席します。

岡本弘次(大 D2)
おかげさまで元気しております。時々、近くの植物園内を散歩しております。

高輪 琢(大 F2)
齢93歳となりましたが、気分的には53歳です。

原 勇(大 F2)
すでに“卒寿”をクリア、“白寿”までもと時折考えますが・・・!? 総会の盛会を祈念致します。

金澤輝彦(大 E4)
満州事変の昭和6年生まれ現在92歳です。我が青春の想い出の摂津耶馬溪(摂津峡)近くの施設で穏やかに暮らしています。司馬遼、漱石、川端、三島、石原慎太郎、文芸春秋・と読書三昧の日々です。

馬場弘行(大 E5)
本年12月で満90才を迎えます。健康上、同窓会には出席できませんが、昭和32年卒の同窓生によりしく。

中川 清(大 S5)
旧陸軍兵舎だった高槻校舎で学んだ私達には眞面新キャンパスは夢の世界です。

正賀幸久(大 IP6)
大 IP6 中川博行君と同期です。現在88歳。大阪高槻に居住しています。朝日放送(大阪本社)退職後、同志社女子大、滋賀女子短期大で臨時教員を約10年間つとめ、後はフリーで大阪・東京で講演等々。

金川弘美(大 E6)
正に光陰矢の如し。大学卒業後早や65年になります。毎日元気にやっています。

無記名(大 E6)
創立記念日11.11生れ88才です。現在も毎週2回は片道1時間半使い東京都心へ出掛けています。東京支部月例会は、毎月参加させて頂いています。ウォーキング等で体力維持に努め一日を感謝し過ごせています。有難いです。

西川 毅(大 IP7)
土曜日はデイケアに通所する日。戦後の山岳部創立メンバーの一人ですが、75歳で北アルプスは卒業。今は近所の里山も歩けなくなりました。

井口 毅(大 E7)
コロナのおかげで温泉、城巡りと国内ドライブ旅行をゆっくり楽しみました。囲碁、卓球、ダンスと忙しく通っています。

箱木真澄(大 E7)
その他関係の方々の消息を読むのを楽しみにしています。宜しくお願いします。

千布正人(大 F7)
歳相応に元気にやっています。気がつけば今やPRESBYTERIAN派に属しております。

西田達雄(大 IN8)
外国語学部が主導して積極的に他学部との活動・研究を行い、連携を深めて魅力ある特色ある外国語学部をと願っております。

小坂壽幸(大 B8)
86才。杖なくては歩けないので、遠くへはなかなか行けません。

河野利一(大 A8)
私はホテル業を経営しています。そのうちの一つはhotel itといい、京セラドームに近く好評を得ています。眞面キャンパス向かいのビルは河野ビルと称し、貧ビル経営をやっております。

浅野 弘(大 E8)
加齢のあまりの速さに気づいて驚くのみ。打つ手なし。

菊井忠雄(大 E8)
最近新聞を毎日4~5時間かけて読んでいる。いろいろな内容があつて飽きない。学ぶことが多い。

竹中 弘(大 E8)
杖は最重要必需品。最近、車の免許の更新も決断し何とか自立の人生を継続しています。

和田一馬(大 TV9)
タイ日大辞典 奥野金三 刀江書院 S30 THAI-ENGLISH DICTIONARY McFARLAND いろいろも小生在学中に入手したもの。御興味があればお送りします。お知らせください。

谷 昌宏(大 IP9)
咲耶 No.34の物故者の報に接し、残念に思うと共にただ冥福を祈るばかりです。同期生として親しく交流し、一献傾けて談笑したことなどが思い出される。定年後刊行時に贈呈された自分史『外務省と私』(上下)は私の書棚を飾っている。

久保泰三(大 IP10)
咲耶 No.34の物故者の報に接し、残念に思うと共にただ冥福を祈るばかりです。同期生として親しく交流し、一献傾けて談笑したことなどが思い出される。定年後刊行時に贈呈された自分史『外務省と私』(上下)は私の書棚を飾っている。

橋本 清(大 E10)
阪外大時代には東京外大と毎秋場所を交替でスポーツ交流をしていました。その後、どうなったのでしょうか?知りたいです。

中村邦雄(大 S10)
いつもお世話様です。小生83才、最近とみに老化を感じます。

廣瀬彰彦(大 S10)
阪外大時代には東京外大と毎秋場所を交替でスポーツ交流をしていました。その後、どうなったのでしょうか?知りたいです。

平田建之介(大 C11)
遠州灘に流れ着いてもう半世紀。浪花は遠くなりました。同窓生との連絡も今はなく、あの世が近く感じています。ウォーキング等で体力維持に努め一日を感謝し過ごせています。有難いです。

西川 毅(大 IP7)
土曜日はデイケアに通所する日。戦後の山岳部創立メンバーの一人ですが、75歳で北アルプスは卒業。今は近所の里山も歩けなくなりました。

小原一浩(大 IN11)
金婚記念の一環として、60年ぶりにスマトラのバンバンを訪問。ついでにバリ、ジョクジャ、バンドン、ジャカルタ、シンガポールも。欲張ったので30日間の長旅に。これが最後の長征になるやも。

山川洋一(大 IP11)
地下鉄が開通すれば大学の方におじゃまします。

西村泰作(大 E11)
読書や水泳など楽しんでいます。咲耶会のご発展をお祈りします。

千田 享(大 F11)
エッセー「シニアの退屈日記」を書きました。文芸社から12月刊行の予定です。シニアと社会が健全で、日本が国と地域を安全に維持することを期待しています。皆様のご健康と同窓会の発展を祈ります。

杉野敏夫(大 S11)
ひと頑張り、ひと頑張りで自分に傲るとばし乍ら毎日を通してあります。

佐田公英(大 C12)
傘寿を3年越えるも元気に過ごして居ります。

内原正司(大 IN12)
2020年6月インドネシアから帰国し、流山市で老妻と共に余生を楽しんでおります。

高水忠春(大 IP12)
コロナ禍での外出を控え、運動不足もあり老化が進んで体力劣え参加出来ないのが残念です。

安東英明(大 D12)
この所カメラを持ってほぼ毎日外出、帰宅して編集し作品づくりを続けています。作品はブログにアップ継続、時々写真展を開催して活動を続けています。ブログ:Anchanの遊々フォトURL.https://blog.goo.ne.jp/anchan_1491_1015

佐藤二十四郎(大 S12)
外大もすっかり遠くなりました。

萩原準子(大 S12)
奈良から熊本に引越して7年、月日はあっという間に過ぎ去ります!「毎日日曜日」の生活はメリハリがなく、曜日の感覚も鈍りがちですがボケないように英語、スペイン語他の勉強を続けていこうと思います。

樹下嘉之(大 C13)
守口市原爆と戦争展を主催しています。今年で12回目になりました。

竹下晃治(大 C13)
アフターコロナの今年、5回の海外旅行実施、台湾台北、韓国済州、台湾一周、香港、マカオ。元気なればこそ。物故者リストに知った名前を見るのは悲しい。

橋本 勝(旧教員大 M13)
朔風会(M語同窓会)、名誉教授会の活動に携っております。極力、学会活動にも関わることに努めています。日に40分程度の散歩で健康維持を図っております。

宮田泰雄(大 P13)
「私はどこにもいない→私はいまここにいる」英語では、I'm nowhere. → I'm now here. スペースを1つ入れるだけで、ブッダやイスラムの教えに通じるが、日本語の語順を直訳して閃いたこと(怪我の功名)。余生が短くなる高齢者にとって「今を生きる Carpe diem」ことが切実な響きを帯びてくる。

井上久生(大 IN14)
80才の壁を越えたとたんコロナ感染!同期会も高齢化で今年が最後かな?

井上哲朗(大 B14)
社会保険労務士、通関士、令和5年度自治会会長。奈良咲耶会(毎月1回)にも来て下さい。

松永秀夫(大 D14)
さすがに体力の衰えを感じながらも庭仕事、畑仕事、週2回のプール通いと何とか生き延びています。どなたかタイ語科14回(又は15回)卒、前川敬博君の消息ご存知の方がおられたらお教え下さい!!

小部 修(大 C15)
先日(9/21)で79才になり、この3月で関西外大、大経大ともに退職し、今は地元(東大阪)で中国語、大阪市で英語の講座を楽しんでいます。それと45才から始めたサックス、尺八の演奏活動をしていますので、お役に立つことがあればお申しつけ下さいね。

藪 司郎(旧教員名誉教授大 B15)
昨年10月大野徹先生がお亡くなりになり、ビルマ語で教えを受けた服部正一、原田正春両先生を含めてお三方もおられなくなりまして。大阪外大・阪大ビルマ語専攻も一挙に新しい時代にはいった思いがし、感慨を覚えます。

今月下旬、武漢コロナウイルス禍のなかしばらく途絶えていた、昭和42年ビルマ語卒業の同窓会が開かれます。60年前奇しくも上本町八丁目の阪外大学舎で巡り会った若者も今や八十歳を迎えました。久しぶりの再会が楽しみです。(2023.10.12)

穂積健次(大 E15)
10年間継続したコンサル業を卒業します。先方が業績、業容とも独立独歩可能に成長されたため、万歳!

佐々木康治(大 E15)
旅、テニス、山、囲碁、英語と元気に楽しくやっています。

村山久二子(大 E15)
年齢が高くなる毎に身体のトラブルも多くなります。なるべく現状維持をめざしてカーブスの脳トレ、病院定期チェック、友達との楽しいプランは常に考えています。

吉田征子(大 E15)
もうすぐ79歳。年月の重さに感無量ですが、まだまだしたい事が沢山あるというのは幸せなことです。健康と外大の4年間がそのベースにあります。

大西秀雄(大 E16)
夫婦で海外旅行や国内の温泉巡りを楽しんでいます。昨年は同窓生を募り伏見桃山散歩をしてきました。

高橋輝次(大 E16)
仕事はやめていますが、来年前半に『モダニズム出版社の探検』を出す予定です。

橋 勲(大 M16)
大学を卒業して55年。今は週一の出勤で仕事を続けています。10年前の肺がん手術も転移もなく今は完治し、片道2時間の通勤を楽しみながら人生を謳歌しています。

本田正伸(大 IN17)
2020年1月のインドネシア訪問を最後にコロナで行けず、そろそろ再訪したいものです。

戸倉光明(大 IP17)
阪外大時代は合気道部でした。語科の仲間は交流は無いが、部活の仲間とは卒業後の54年後でも交流があります。

山下輝夫(大 TV17)
元気です。いつまでも健康でありたい。

短 信

総会出欠ハガキの短信欄からの転載です

中川裕二 (大 S17)
いつもお世話になっております。会の盛会をお祈りします。

杉本清隆 (大 M18)
没世間ではと、何十年ぶりかで将棋のサークル2つに入ります。孫3人のうち一番上は来年から高一です。

北川逸子 (大 IN18)
もとはインドネシア語専攻でしたが、ジャカルタにいた間に周りの方々との交流から自分の言語である日本語を外国人の目で見つめ直して日本語教育の沼にどっぷりはまっていました。今は退職しています。

岩永靖正 (大 E18)
会報を見る度に時の流れを感じ、上本町時代をなつかしんでいます。

森永 茂 (大 D18)
1966 年 4 月～1970 年 3 月の 4 年間、上本町駅から上八の〔旧大阪外大〕へ通った道を今、なつかしく思い出しております。卒業以来すでに 53 年 7 ヲ月、前回の大阪万博(1970 年)も同じく 53 年前の思い出です。

王 寛一 (大 K19)
今年 76 才になります。「京都慶尚南道道民会」の会長をしております。その他、「日韓親善協会」「京都保護育成会」の理事もしております。又、2020 年よりホテル「ロイヤルツイン京都八条口」を開業致しました。

船戸誠一郎 (大 E19)
2023 年 7 月 23 日、コロナ明け3年ぶりの天満天神ギャルみこして帰阪。翌日の宵宮前、千里中央駅からバスで新船場北橋。御堂筋以外に船場があるとは！満員の阪大見学生(?)につき、モダンな建物へ。「みどころ MAP」を貰う。「箕面船場阪大前駅」は谷丸に対応、喧騒の上八から静寂の間谷への移転反対者達は大喜び?!

白岩 修 (大 D19)
咲耶会名古屋支部長をしています。ジム、健康麻雀、テニス、カラオケ、男の料理等を楽しんでいます。たまの飲み会も楽しみです。

神崎康彦 (大 F19)
年令 +3 才相当の自立生活。

名波谷吉則 (大 IT19)
成田空港で伊・仏・西・ポ、英語を駆使して、訪日外国人のツアー、イベントクルーズ等の訪日外国人出迎え業務に従事。人手不足なのでこのまま 80 才頃まであと数年働き続けるかもれません。

木下育夫 (大 S19)
懐かしく愉しかった S 語科クラス会から帰った翌日に、長雨で濡れた庭石で滑って転倒し肋骨 4 本を骨折。後期高齢者となった直後の怪我で、合気道部で培った筈の反射神経の衰えと自分の年齢を改めて確認させられた次第。富山の田舎でゆったり、のんびりと暮しています。

澤田秀明 (大 R19)
後期高齢者となりましたが、病氣と上手に付き合いながら元気に過ごしたいです。

辻野六郎 (大 C20)
この3年半、コロナ禍から抜けつつあります。幸いに元気に日々を過ごしています。

服部健治 (大 C20)
今年 3 月に着任した呉江浩中国大使とは 1980 年代北京の日中経済協会事務所で机を並べて仕事をした仲。また北京の垂秀夫日本大使とは私の中学校の後輩。日中双方の大使とも知己なので、日中関係の打開に尽力したい。

筆本能行 (大 C20)
コロナ禍後初めての中国旅行前で胸がワクワクしています。今回は南方が主で、上海、広州、深圳、杭州を予定しています。

猪田直樹 (大 A20)
約 8 年前に会社を退職して今は一日 17000 歩のウォーキング、月一回の国内旅行を楽しむ生活です。

神崎 (岡野) 信子 (大 F20)
元気に暮しております。

畑山康幸 (大 K21)
昨年の朝鮮語学科 60 周年の集いに参加し、懐かしい諸先輩やたのもしい後輩に会うことができ、その活躍ぶりを知ることができました。人生もラストスパートというところで、関心事に関する本を読み、原稿等を執筆する日々です。

阿部博司 (大 M21)
ウイズコロナとなり、同窓会・OB 会などが復活。改めて新しい刺激を享受しています。

上原 修 (大 IP21)
新校舎を是非見たかったのですが、所要のため断念。コロナ後で都内出講が対面となり多忙をエンジョイしています。

市田慶一 (大 TV21)
卒業して 50 年、短信を見て知っている名前を探すのも楽しみが増えました。まだ仕事をしています。先月中国出張してきました。

松木 (樺手) 美知子 (大 IT21)
2023.10.17 外大ギター部 OGOB 会に参加してきました。卒後 50 年もたっているのに会えばすぐ分かる人、そうでない人も。6 人のメンバーによる“ファルーカ”の生演奏に感激。OGOB 会開催の労をとってくれた諏訪さん、岡本さん、吉野さんに感謝。ギターに感謝。

加藤直樹 (大 S21)
ギタークラブ OB 合唱団は大阪・東京・名古屋で活動を続けています。

杉本重雄 (大 S21)
卒業後 50 年の記念に箕面新キャンパスでの咲耶会総会に出席しました。

中村友則 (大 R21)
老化防止の為に語学ラジオ講座を聞きつつ日本の歴史や宗教にも興味が出てきて図書館通いをしております。

藤井利男 (大 K22)
マーケティングコンサルタントとして販路開拓営業支援と投資の仕事をしています。

石黒伸幸 (大 IN22)
ジム通い、スポーツ観戦他筋力維持の為外出を心がけています。

矢田 (友次) 初恵 (大 IN22)
会報なつかしく拝見しました。皆様のご活躍を心強く思います。私は岡山きびの会 (ひきこもり家族会) のお手伝いをしています。

服部正喜 (大 IP22)
国連改革 NGO のメールマガジンを発信しています。無料。受信希望の方はご連絡下さい。hot1016@hotmail.co.jp(服部)まで。

山口高明 (大 IP22)
69 年入学生 (東教大・東京大入試中止年) の同窓会を開きたいですが？御賛同頂ける方は？yesicanthankyiu@gmail.com

川田豊実 (大 F22)
日本ジャーナリスト会議 (JCJ) の活動を手伝っています。1 月には南西諸島軍事化の視察に行きました。平和は風前の灯でした。

藤田 明 (大 F22)
税理士事務所は法人取引 25 社であと 5 年は頑張ります。市川カトリック教会の日曜ミサに出ています。ミサ後は信者さんと交流。フランス人のペラルル神父さんの勉強会にも出ています。

轟 潤子 (大 S22)
一度新キャンパスをゆっくり拝見したいと思っていますが、11 月は予定があり残念です。

幸田正章 (大 R22)
『咲耶』を読んでいると、同窓生の世界への広がりとそのパワーは、どこを向いているのかはつきりしないで、関心事に関する本を読み、十分なものと感じます。

山本由紀子 (大 P23)
室内で膝の陥没骨折をし、3 か月入院。その間、肺に血栓がつまり死にかけて車椅子生活です。上八時代病弱で体育の単位不足を見学で補いました。森さんも隣にいました。物故者の中に森先生の名があり驚きました。合掌。イランは 54 で留学時お世話になった。

田島和也 (大 S23)
インバウンド旅行者が増え、ガイド不足か、たまに声がかかり、京都・奈良・広島・高山など楽しみながら仕事しています!!

的場 博 (大 IT24)
65 歳でリタイア。現在年金生活。

村田ナオミ (大 A25)
コロナ前にラストソロコンサートをしておいてよかったです。今はオンラインで外国の人とカラオケしてます。

日比 隆 (大 P25)
マレーシアで、自動車会社定年後引き続き友人のローカル企業を手伝っています。

櫻井千賀子 (大 E25)
若い頃は老人はなぜ同じ話ばかりするんだろうと思っていました。古希目前の今、老人は「新しい思い出」を作る機会に恵まれず、しかも言ったことを忘れるからだと実感しています。

圓山 望 (大 IP30)
浄土真宗本願寺派 (西) 寺院の住職として IP の後輩、中島岳志氏の講演を聴きました。立派な後輩のおかげで“ハナタカダカ”でした。

木村弘一 (大 D30)
世界核戦争。プーチン、劣化ウラン弾への核報復明言 (22 年 9 月)。殺人狂ハッカーも核施設ハイジャック。現行 RSA 暗号も量子耐性暗号も破る数論テク多数。X(ツイッタ)@koiitiluv1842

高木 亨 (大 R25)
年金生活 2 年目です。

江藤修平 (大 B26)
卒業して 45 年、今もフルタイムで働いています。同窓会やりたいですね。

須田 和 (大 IN27)
今年は市の事業があり、出席できず、大変残念です。ご盛会をお祈りいたします。

味岡保雄 (大 E27)
令和 5 年 3 月に神戸親和女子大学会報なつかしく拝見しました。皆様のご活躍を心強く思います。私は岡山きびの会 (ひきこもり家族会) のお手伝いをしています。

河井洋子 (大 R27)
ロシア語と英語は私にとって大切な言語です。両方とも上級レベルを維持するように努力しています。

井上俊二 (大 C28)
8 年間の中国勤務を終え、帰国しました。

堀内宗隆 (大 C28)
コロナ禍の 3 年間は幸いにも充電期間として過ごし、完全フリーランスへの準備に忙しくしています。世界に目をやれば過去の栄光を独裁手法で取り戻す為に自己の欲望を増長させるものの、100 年前後で彼らは衰退してゆくことを歴史は教えてくれるように思います。2023 年未、その兆候はある様な気がするこの頃です。

平井隆之 (大 TV28)
14 年振りにタイから戻り、実家のある明日香で穏やかに暮しております。

横山博史 (大 A28)
2023 年 7 月末にて再雇用 の 6 年を含めた 43 年 4 か月の勤務を終了しました。今後は講師として(引き続き)キャリア・ライフプラン・グローバルをテーマに働く予定です。

稲村 (加藤) 洋 (大 P28)
上八学会のころ、東花園にあった花園寮に住んでいました。この年(68 才)になっても当時の寮仲間と、1 年に 1 回再会を楽しんでいます。名前は「花園五人衆」です。R6 は大阪方面で開催予定です。“Gaigo will shine tonight!”

長谷川由起子 (大 K29)
2023 年 3 月で九州産業大学を定年退職しました。老後は福岡で。

川村優理 (大 TV29)
登録有形文化財館長。市史編さん事業を進めています。ラジオパーソナリティー。「ホトギス」同人。

吉川由香利 (大 IT29)
東京での生活が長くなりましたが、来年からは拠点を徐々に田舎に移していくつもりです。

池田直美 (大 S29)
派遣の仕事も辞め、10 月から通信制のキリスト教神学の学びを始めました。新たにギリシア語にも挑戦しています。

圓山 望 (大 IP30)
浄土真宗本願寺派 (西) 寺院の住職として IP の後輩、中島岳志氏の講演を聴きました。立派な後輩のおかげで“ハナタカダカ”でした。

島田郁子 (大 A35)
島田イベントも多くなかなか出席できません。咲耶を読んで同期・前後の方々や先生方のお名前をさがすのが習慣です。いつか箕面へも行きたいです。マムシはまだいるだろうか…。

兜坂裕一 (大 DM35)
還暦の時に免許を取って大型バイクに乗っています。

高木秀樹 (大 C36)
18 年ぶりの虎リーグ優勝に、在学中の 1985 年を重ね感慨深いです。道頓堀ダイブをやっていたら退学だったでしょうか？

片田 聡 (大 DM36)
60 才を迎えましたが、当面トルコ・イスタンブルで勤務します。

篠崎裕二 (大 IN37)
今年度末で定年となります。別府で還暦をむかえるとは思ってませんでした。

藤野富美 (大 F37)
定年が見えてきました。子供達が手を離れ、ただ一番お金のかかる時期で定年後も細々仕事をしたいと思っています。紛争ばかりの世の中、英語以外で情報をとれることの有難さを感じています。とにかく平和を！

久林 融 (大 P32)
2020 年 3 月にドバイより帰国し大阪で国際物流会社にて勤務しています。剣道の稽古も続けています。

中路 亨 (大 E32)
短信欄に同窓の名前を見つけるとうれしくなりますね。外国語学部のご発展をお祈りします。

梅崎修一 (大 S32)
今年 9 月に定年退職しました。ハローワークで再就職先を探しています。コロナが収まって訪日中のイタリヤ人にスペイン語話すんやねとお互い片言で意思疎通しました。英語だともっとスムーズに会話出来るんですけど。アメリカやカナダからも羽田空港で訪日中の人に話しかけられたり楽しい職場でしたがこれからは第 2 の人生を楽しみます。

栗生 昇 (大 K33)
グリークラブ OB 合唱団で歌っています。2026 年にはグリー創部 100 周年を迎えます。大きな節目となる 100 周年演奏会を成功させるべく頑張って準備を進めております。

塩谷茂樹 (現教員 大 M33)
今夏 (2023 年 9 月 15 日)、モンゴル国政府国家勲章「科学上級研究員」章を受章しました。

青木 (盛島) 由香 (大 F33)
前号この短信コーナーにて、長男の勤務先の上司のお父様がフランス語科の大先輩でいらっしやることを知りました。長男が大変お世話になっている上司の方との不思議なご縁に驚くとともに、嬉しく感謝の気持ちをごみ上げてきました。

橋本優子 (大 R33)
令和 4 年 3 月 31 日に定年退職し、再任用で働いています。

早川千晶 (大 R33)
現在、予備校で個別指導 (英語) を担当しています。今も語学に関わっているのは外大卒業のおかげです。

森脇重光 (大 C35)
愛知の某自動車メーカーから子会社に転籍して早や 1 年、なかなか大阪へ帰る機会がありません。『咲耶』は楽しく読ませていただいています。

島田郁子 (大 A35)
秋はイベントも多くなかなか出席できません。咲耶を読んで同期・前後の方々や先生方のお名前をさがすのが習慣です。いつか箕面へも行きたいです。マムシはまだいるだろうか…。

野口麻衣子 (中・北欧大 SD49)
Jesus Loves You!

谷口由樹子 (中南米大 S50)
在学中は大学院に進学するなど一切想像していませんでしたが、四十路を越し院試を受け、今春無事に修士を終え、現在は博士課程です。いくつかになっても学びは楽しいですね。

若宮 武 (開発・環境大 S4)
ドラマ「VIVANT」でモンゴル語が滝のように流れてきて狂喜しました。

伊津野真也 (中・北欧大 E54)
地方の金融機関で市場リスク管理を担当しています。英語はすっかりごぶさたで FOMC の声明文を読む程度です。

片山夏紀 (アフリカ大 SH59)
退職された中島久先生を囲み、月に 1 度スワヒリ語読み会が行われています。参加者と楽しく小説を読み進めています。

浜田淑子 (大 C38)
素敵な会報ありがとうございます。東京は女性や若者が参加し易いように、日曜開催 (毎月ではなく)、子連れ可、明朗会計でお得に思いますが、道のりは遠いです。

三村章子 (大 C40)
高校教員になって早くも 30 年。いつか箕面新キャンパスを訪れてみたいです。

中西勝弘 (大 IP40)
滋賀の県立高校で教頭をやっています。箕面の山なみを眺めながら学んだ学生時代は私の宝物です。

野上麻理 (大 E40)
東京 - 大阪を往復しながら働いています。

下社 学 (大 M42)
定年まで 5 年ほど残り退職。7 月から三重県で備長炭の炭焼き職人の見習い中。

佐藤あかね (大 D42)
トレ・フォーール 40 周年の記事に感動しました。掲載して頂きありがとうございます。同好会の益々の発展をお祈りしています。

森 博美 (大 A43)
箕面新キャンパスの空間はいつかぜひ訪れてみたいです。語学と真剣に向き合ったあの頃が、今も懐かしくよみがえってきます。

佐藤慶一 (大 P43)
現在はウクライナ支援関係の仕事をしています。

橋本宏子 (大 IN44)
神風 南無妙法蓮華経 (漢土) 皆様、お元気ですか? 私は元気です。学学生会活動家に期待します。(鞘の内)

アサディ (高木)みわ (国際関係大 45)
静岡ムスリム協会事務局長として静岡のイスラム教徒のコミュニティを支えています。夫はモロココ人。

長谷川宣子 (中南米大 S47)
東京で就職し、ネパール人と結婚。22 年間働いた経営コンサルティングと IT 業界を辞め、デザイン職に転身を試みています。言語から非言語の世界への挑戦です。

前田 (秋山) 瑞枝 (言語大 48)
琉球民謡にハマって 20 年。舞踊では年に数回舞台に立っています。「ドミファソシ」の音階はインドネシアのガムランと共通しており興味深いです。

高橋 (大山) 陽子 (II E10)
下駄を履かせてもらい卒業したので、卒業したという認識が希薄でしたが、これからは年会費はちゃんと支払わなければならないと思います。NHK テレビで英語を再勉強しています。本年度は都合悪いですが、来年度は出席し、新キャンパスを見学したいと思っています!

吾妻 哲 (II D11)
ストローム先生の消息有難うございました。
酒井良夫 (II E14)
卒業して 40 年近く経ちましたが、、皆様お元気でしょうか。会報が届くたび上八や箕面で過した日々を懐かしく思い出します。
内田千景 (II D14)
外大 II 部でドイツ語会話を教えていただいたストローム先生が、2022 年 10 月に 100 歳で亡くられました。ドイツにて。

遠水香苗 (中・北欧大 SD59)
今夏は、単身赴任のスウェーデンから 3 年ぶりに帰国し、家族と旅行したり、友人と食事をして、とても充実した楽しい日々を過ごしました。

實 亜里紗 (阪大 C5)
2022 年に北京駐在から帰国し、2024 年から東ティモールに赴任することになりました。咲耶会の盛会をまた異国の地からお祈り申し上げます。

立川真理恵 (阪大 K7)
修士課程から東京大学に移り、現在は韓国の絵本の研究をしております。新しくなったキャンパスにもぜひ遊びに行きたいです。

齊藤涼花 (阪大 C8)
先日空港での仕事の他に、JAL ふるさと応援隊として訪日外国人のお客様の能舞台鑑賞と交流会のサポートをしました。英語と中国語とで日本のおもてなしを伝える良い機会となりました。

久國宣弥 (短 D4)
まだ元気で語学を楽しんでいます。

飯田弘道 (短 E5)
ゴルフは 100 の壁が厚かった。今、自分の人生 88 才の予想外の厚い壁をようやく打ち破ったところ です。

茂幾周治 (短 R6)
83 才になりました。毎朝瀬田川沿いを散歩し元気に暮っています。

富永 (鄭) 真己 (中・北欧夜 E30)
一生のうちに一度会ってみたかったエリザベス女王が他界し、この春、母が他界し、恩師が他界し、と悲しいことがばかり続いていた中、咲耶を拝見し励まされた気分になりました。ありがとうございます。

林 晋作 (中・北欧夜 E31)
第 16 回ノースアジア大学文学賞 (小説) 入賞。
山形新聞文学賞 (小説)3 度入賞。
村中美紀 (東アジア夜 C34)
新キャンパスとても行って見たかったのですが、子供の受験のサポートのため、来年にします。私事としては英語を再学習してスキル UP をめざしています。

宮崎又郎 (短 D6 II R3)
在学中は、20 以上の言語を履修しましたが、在職中に使えたのは 3 つ程度。退職後は 2 ヲ国の外国語で産業翻訳を楽しんでいます。

高橋 (大山) 陽子 (II E10)
下駄を履かせてもらい卒業したので、卒業したという認識が希薄でしたが、これからは年会費はちゃんと支払わなければならないと思います。NHK テレビで英語を再勉強しています。本年度は都合悪いですが、来年度は出席し、新キャンパスを見学したいと思っています!

吾妻 哲 (II D11)
ストローム先生の消息有難うございました。

酒井良夫 (II E14)
卒業して 40 年近く経ちましたが、、皆様お元気でしょうか。会報が届くたび上八や箕面で過した日々を懐かしく思い出します。

内田千景 (II D14)
外大 II 部でドイツ語会話を教えていただいたストローム先生が、2022 年 10 月に 100 歳で亡くられました。ドイツにて。

嶋田 潔 (II F15)
円安で苦戦しております。

近藤孝一 (II S17)
一限目が終って、休み時間によく生協の書籍部 (間谷学舎) に行ったあの書庫。そこにいた店員のお姉ちゃん美人だったなあ、なつかしいです。

田坂雅弘 (II F19)
令和 5 年 2 月に還暦を迎えました。現在も香港を拠点に仕事をしています。

福原慶尚 (II E20)
後期高齢者の小生「去る者は日々疎し」の毎日を送っています。

下村功次 (II C25)
3 月末で定年になりました。あいかわらず高校で中国語を教えています。

西田忠幸 (II F25)
皆様お元気ですか。私は元気ですよ。

富崎宏子 (II D26)
元気です。

諸田宣広 (II R26)
ウクライナ危機やガザ地区の紛争の即時停戦と対話を強く望んでいます。

北出澄子 (II E27)
50 才近くなってから II 部に入学したので、そろそろ老人ホームの事も考えなければと思っています。

森谷泰子 (II R27)
2022 年 10 月、所属している劇団でヴァムピーロフ「長男」を日本語で上演しました。1 回生の時に語

劇でいただいたニーナ役と同役で出演。ロシア、ウクライナ情勢を思いつつ演じたことは忘れられない思い出です。

常 義宏 (II C28)
令和 5 年 3 月伝宗伝戒道場満行し浄土宗の僧侶となりました。

河北隆一 (II F29)
スイス言語学者ソシュールは 1913 年 (大正 2) 55 才の生涯を終えた。ソシュールとは誰か？

寺尾 (渡邊) 裕子 (大 DM21 院 J16)
あの坂と階段のある粟生間谷の外大院で学んだ 30 代の頃は体力があったなあと思っ出している。杖を友とする現在なら通学は到底無理。

亀井克之 (大 F33 II E19 院 F20)
近年『フランス映画に学ぶリスクマネジメント』(ミネルヴァ書房)や『フランス医療機関に教えています。学部ではモンゴル語専攻でしたが、今はタイ語も勉強しています。

山西敏博 (院後言社 8)
総会・懇親会とも楽しみにしております。大阪大 (咲耶会) のために尽力します。

香田龍太郎 (ロシア・東欧大 HG55 院前口東欧 13)
大学在学中のように、勉強に集中したいと思いながら生活しています。

篠田百合 (院後日日 15)
3 月に MC 修了後、大阪大学 CJLC の特任助教に採用され、8 月からは Thailand の Rangsit University に赴任。教養学部日本語学科の講師として日本語を教えています。学部ではモンゴル語専攻でしたが、今はタイ語も勉強しています。

並川嘉文 (第 C 47 院前日本 7)
2024 年の堀川ツアーはメキシコに行きました。

市川明先生を偲んで

大阪大学人文学研究科外国学専攻 准教授 **北岡志織**

2024年1月8日、市川明先生が急逝されました。対訳本の最新作を準備されていたさなかのことでした。

市川先生は統合後も2014年のご退官まで箕面キャンパスでドイツ演劇ゼミを担当され、多くの学生・院生がご指導いただきました。ベルトルト・ブレヒトとハイナー・ミュラーの専門家である先生は日本におけるドイツ演劇の発展に多大な貢献をされました。と同時に、常々「遊びも学びも全力で」とおっしゃって、人生を楽しむべき時には楽しむことの大切さを身をもって示して下さいました。

御縁あって私は現在市川先生が担当されていた授業を受け持っています。「10年早いわ」と笑いながらも、先生が優しく見守ってくださっているような気がします。微力ながら、先生に学んだドイツ演劇の魅力や、さらに次の世代に伝えていければと思います。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

物故者

令和5年7月から令和6年6月までに連絡いただき、確認がとれた方々のお名前を掲載いたしました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

語科	氏名	語科	氏名	語科	氏名	語科	氏名
名誉教授	市川 明	IN23	波部 清	大E5	藪内吉夫	大F7	千布正人
名誉教授	是永 駿	IN25	梅田嘉昭	大E6	柴田純徳	大F7	長山泰利
名誉教授	田中 仁	IN26	吉田勝博	大E7	千神昭士	大F9	凶師(細谷)千鶴
現教員	儀利古幹雄	大IN2	河野石根	大E8	山本昌英	大S6	宇野弘司
C18	松倉(井澤)俊之	大IN5	田中 平	大E11	山本(箸方)貞子	大S6	松井郁夫
C22	近藤龍弘	大IN12	小杉 功	大E13	佐藤 毅	大S8	多田 脩
C23	米田耕三	大IN12	西谷源次	大E15	大西房敬	大S11	杉山 晃
C23	周藤道生	大IN17	泉 三郎	大E15	三浦(金山)伊都枝	大S11	中山弘之
C25	松山成雄	大IP6	小原一馬	大E17	林 和仁	大S11	福本(長田)育子
大C3	吉村一郎	大IP9	奥田清明	大E18	上田 銅	大S11	若原正明
大C6	中島章夫	大IP11	席田有美	大E25	吉田友行	大S15	池内 宏
大C7	清水信義	大IP13	永原恵史	大E30	徳岡(梅木)範子	大S32	政倉充幸
大C8	笛吹和正	大IP21	立川(中村)真理	D21	西山永寿	大R9	坂田 愷
大C8	橋本善彦	大TV3	堀口 弘	大D1	竹内昌夫	大R19	小竹正幸
大C9	平野忠彦	大B4	橋本周三	大D4	増田 健	大R28	品川 透
大C11	出浦清隆	大B21	馬場憲二	大D7	富田吾吾	大SH56	山瀬朝弘
大C12	大原洋三	大B24	重富勝己	大D7	宮坂豊夫	大SH56	岸田 實
大C13	田村(塚原)節子	A24	松村 平	大D17	佐藤(伊藤)博子	短E2	藪内儀唯
大C17	三澤廣彦	大A10	上野悌嗣	大D21	北田(畠中)勉	短E3	善積(河合)多津子
大C17	山口建治	大A10	原田 尚	大D24	岡田(川勝)真水(真美子)	短E3	峯 達也
大C25	笠井孝之	大P13	西川文雄	F16	神原末一	短E6	畑中善機
大C30	多田 昭	E22	鈴置信宥	F25	中西俊夫	短F5	橋本博光
大C34	市浦計宏	E23	吉川嘉三	F26	木村圭三	II C20	橋本恭佑
大C43	大井登紀子	E24	岩淵節雄	大F1	山田鐵也	II E4	大地未廣
M22	室谷 勲	大E1	橘 忠司	大F4	石河順一	II D2	高橋善介
大M7	橋田耕一	大E1	武田(藤岡)暢樹	大F4	奥田政夫	院E27	三島慎司
		大E1	田淵(E.フロレス)英堂	大F7	朝倉栄一		

会報『咲耶』協賛広告掲載のご案内

● 広告の大きさと広告料：

- ・A4 1 ページ (10 万円)
- ・A4 2 分の 1 ページ (5 万円)
- ・A4 4 分の 1 ページ (3 万円)
- ・A4 8 分の 1 ページ (2 万円)
- ・個人名刺広告 (5 千円)

※オプションとして、3千円の追加料金で、咲耶会 HP にバナー広告を掲載

● 広告の申し込み方法：

掲載ご希望の方は、電話、FAX、Eメール等により、咲耶会事務局にご連絡ください。

<咲耶会 事務局> Tel & Fax：(072)728-2327

Eメール：sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

儀利古先生への感謝と追悼

大阪大学人文学研究科 応用日本学コース 博士前期課程1年 **加藤紗雪**

儀利古先生のご逝去を悼み、心よりお別れのご挨拶を申し上げます。

突然の訃報に接し、私自身のみならず、先生の教え子全員が大きな驚きと悲しみに包まれております。

先生の講義は毎学期大変人気があり、大講義室で大勢の学生と共に学んだことを今でも鮮明に覚えています。講義内容も非常に興味深く、学部時代に受けた先生の授業は私が大学院進学を決意する大きなきっかけとなりました。大学院に入学してからも、研究のみならず人生において大切なことを数多くご教授いただき、先生の卓越した指導と温かいご支援には深い感謝の念を抱いております。このような素晴らしい恩師を失ったことは誠に残念でなりません。

先生のご功績と温かな教えは、私たち教え子の心に永遠に刻まれています。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

大C25	中井康夫	大C35	満原(上野)逸子
大C1	吉村怡三	大C35	小川雅美
大C3	中井 隆	大C35	池端(鹿島)智美
大C3	松浦慶治	大C35	塩谷和久
大C4	青木明生	大C35	多門美穂
大C5	富永(磯部)邦夫	大C35	西邑一美
大C5	増田栄三	大C35	森脇重光
大C6	小松哲夫	大C36	石光 猛
大C6	野口亮造	大C36	熊谷(小野)晃子
大C7	待場(一瀬)裕子	大C36	加藤敬介
大C7	杉本達夫	大C36	平野拓也
大C7	長谷川富雄	大C36	安保華子
大C8	松山次雄	大C37	河本高枝
大C8	西勝雄雄	大C37	濱田久美
大C9	片本善清	大C38	今田憲男
大C9	岡本(高田)篤子	大C38	西田 眞
大C9	平岡 豊	大C39	池山良太郎
大C10	石田敏夫	大C39	桧尾(榎本)季美
大C10	加来洋二郎	大C39	瀧(黒川)直美
大C11	青木俊一郎	大C39	田中千賀子
大C11	平田建之介	大C39	棚田(原田)由紀子
大C11	村岡 穆	大C40	島村(河野)多鶴子
大C12	前田(尾形)潤子	大C40	神田(牧川)友美
大C12	片桐淳二	大C40	三村章子
大C12	斎藤彰一	大C41	山内(竹裏)智恵
大C12	崎 貢	大C44	山岡(太田)あかね
大C12	玉山(西田)順彦	大C44	荻野好雄
大C12	南 賢	大C45	千田(伊東)理恵子
大C13	樹下嘉之	大K16	前田征信
大C13	児玉範彦	大K17	瀬古邦子
大C13	坂野勝彦	大K19	王 寛一
大C13	住山 毅	大K21	畑山康幸
大C13	竹下晃治	大K23	芦田 進
大C13	田辺正明	大K24	三村浩一
大C13	田村(塚原)節子	大K25	渡部宏文
大C13	友永正和	大K27	竹鼻 毅
大C13	松井正雄	大K27	松本 哲
大C14	宮端治夫	大K29	上田景男
大C15	吉村(池田)澄代	大K30	青野正明
大C15	森本(石川)美佐子	大K30	任 喜久子
大C15	伊藤彰一	大K31	向頭達夫
大C15	岩本洋之	大K33	栗生(勝本)昇
大C15	大水 勇	大K35	石走(佐々木)裕子
大C15	守屋 求	大K38	森川昌也
大C15	若林道朗	大K38	山田浩子
大C16	河田梯一	大K40	山根泰延
大C16	鈴木莞爾	大K41	徳丸明子
大C16	高城丈夫	大M9	中元寺俊幸
大C16	若菜大樹	大M11	小貫(野間)千鶴子
大C17	葛葉成章	大M11	平尾貞三
大C17	斉藤 誠	大M13	橋本 勝
大C17	西脇義彦	大M13	吉田隆銀
大C17	野口忠夫	大M14	神徳昭甫
大C18	井上高弘	大M16	三村(正田)サカエ
大C18	田中英二	大M16	橋 敷
大C19	春名 肇	大M16	藤川千草
大C19	松野賢二	大M17	東村孝郎
大C20	荻田俊雄	大M18	戸川 浩
大C20	小林和能	大M21	阿部博司
大C20	辻野六郎	大M21	吉本幸吉
大C20	服部健治	大M28	伊藤道彦
大C20	筆本能行	大M29	岩崎 勝
大C21	機野喜代志	大M29	鈴木麻里子
大C22	呂(王)英成	大M31	奥田麻美子
大C22	北畑(山本)千晶	大M31	田中信一
大C23	朝倉潤真	大M33	塩谷茂樹
大C23	中川(雨堤)千枝子	大M34	滝澤(中村)強
大C23	川口 洋	大M36	菊地晋一
大C24	小野善史	大M39	鶴羽(岡)祐美子
大C24	岡田(塩野)光子	大M41	小林悠子
大C24	福富奈津子	大M41	石井(高田)慎子
大C25	酒井克政	IN24	山口一史
大C25	徳永敏夫	大IN3	石井義人
大C26	佐柄保夫	大IN3	梶谷敬二
大C26	佐藤唯文	大IN4	島崎忠彦
大C26	杉田欣二	大IN4	梶谷昌博
大C26	井上(松林)由喜子	大IN5	吉村英男
大C27	繁本孝一	大IN6	磯浦(直林)美恵子
大C28	井上俊二	大IN6	寺嶋正真
大C28	堀内宗隆	大IN7	小黒 一
大C28	村本幸久	大IN7	覚田 滋
大C28	雪原(李)一人	大IN7	丹羽宏造
大C29	津森(飯塚)住子	大IN8	滝本佳一
大C29	平松康弘	大IN8	西田達雄
大C29	多田(吉田)本子	大IN8	西脇 孜
大C31	岩崎 誠	大IN9	植田正博
大C31	植田泰史	大IN9	木下 一
大C31	岸上(高橋)順子	大IN9	松尾 優
大C32	岸本あかね	大IN9	目黒孝敏
大C33	岩井浩二	大IN10	石川恵二
大C33	杉尾広志	大IN10	才木友昭
大C33	水谷秀文	大IN10	高野郁男
大C33	渡部一雄	大IN10	松木 優
大C34	赤松秀樹	大IN11	大田中 実
大C34	遠藤由紀子	大IN11	小原一浩
大C34	竹中俊穂	大IN11	竹中一良
大C34	木村(御園生)美香	大IN11	前田比佐夫
大C35	二河(井上)ゆかり	大IN12	内原正司

大IN12	澤井佳一	大IP21	大野 裕
大IN12	苗村和男	大IP22	小野俊一
大IN13	伊藤敏雄	大IP22	服部正喜
大IN13	宮崎衛夫	大IP25	三戸(清野)由美子
大IN13	森岡義典	大IP25	笹山喜市
大IN13	横田義明	大IP25	中村(中村)智子
大IN14	扇谷竹美	大IP26	瀧野真咲
大IN14	沖 政夫	大IP26	中村隆雄
大IN14	鈴木安夫	大IP27	白水和憲
大IN16	広瀬(山田)加代子	大IP27	神野(杉野)弘美
大IN17	西川欣二	大IP28	片山 眞
大IN17	本田正伸	大IP28	下野俊朗
大IN18	北川達也	大IP28	竹村(鈴木)康子
大IN18	柳沢長四郎	大IP28	新井(沼井)君子
大IN19	野崎淳一	大IP29	永井(高松)和子
大IN19	山崎 訓	大IP29	向谷 勉
大IN21	小田敏治	大IP29	向井多々良
大IN21	木股恭孝	大IP30	川上 薫
大IN21	三好勝春	大IP30	ロビンソン(児玉)エデラ
大IN21	米田洋一	大IP30	木本(鈴木)絹子
大IN22	石黒伸幸	大IP30	中道淳一
大IN22	矢田(友次)初恵	大IP30	園山 望
大IN23	石丸誠一	大IP31	豊田(小田)美津子
大IN23	辻本雅洋	大IP31	竹内(佐々木)厚子
大IN23	丹羽慎吾	大IP31	三木雄一郎
大IN24	廣澤義幸	大IP32	ヴェンク(坂下)優子
大IN26	中村由実	大IP32	山内(宮本)江身子
大IN27	大野 泉	大IP32	関尾(敷内)昌美
大IN27	須田(坂元)和	大IP34	西(管)ひろ子
大IN28	赤橋(井上)由美	大IP34	桑林浩治
大IN28	片山信英	大IP34	辻 裕紀夫
大IN28	松本(西村)雅子	大IP34	中江加津彦
大IN29	下野正一	大IP36	青山(久保)聡子
大IN29	道幸静児	大IP36	桐生(細川)正弘
大IN32	鶴田譲治	大IP37	大石(橋本)なつ美
大IN35	太田幸大	大IP38	佐々木雅彦
大IN35	高岡容子	大IP38	上床真弓
大IN37	村上(辻井)真紀	大IP38	高尾 誠
大IN38	田中千晶	大IP38	山中(土)博弥
大IN39	山崎(田中)美穂	大IP38	高尾(藤林)節子
大IN40	金子敦子	大IP39	岩永(村木)利多
大IN40	下平英輝	大IP40	前田健二
大IN41	土屋裕美子	大IP40	中西勝弘
大IN41	堀川晃一	大IP41	西村昌也
大IN42	竹前(小林)望美	大IP41	福田(穂多田)昌子
大IN43	今井弘之	大IP43	野間(榎本)了子
大IN44	藤原(田中)佳織	大IP44	山本(榎野)幸代
大IN44	山田(橋本)宏子	大TV11	北村道郎
大IN44	三隅理恵	大TV11	西沢敏彦
大IN45	武田(平松)祐子	大TV15	赤木 攻
大IN45	興侶雅哉	大TV15	奥田(猪田)紘子
IP25	松永通温	大TV15	請田裕史
IP26	調子 肇	大TV17	土森道雄
IP26	中島宏二	大TV17	蔽 庄治郎
IP27	奥村鏡寛	大TV18	田口 進
IP27	竹内玉蔵	大TV18	宮川(矢上)季子
IP27	宮崎多喜男	大TV19	児玉伸之祐
大IP3	小林富藏	大TV22	西村朋也
大IP5	谷本幸夫	大TV24	川村芳範
大IP6	木戸秀雄	大TV28	西村俊一
大IP6	正賀幸久	大TV28	福田和弘
大IP7	西川 毅	大TV29	川村優理
大IP8	藤本清志	大TV29	大木 守
大IP8	増田次郎	大TV30	磯部英美
大IP9	田中 勝	大TV30	田中美穂子
大IP9	谷 昌宏	大TV31	内山博貴
大IP10	大西章文	大TV31	南 学
大IP10	大根瑞徳	大TV32	野津幸治
大IP10	久保泰三	大TV33	田島啓行
大IP10	高 康治	大TV33	村岡貴子
大IP10	瀨川(東岡)恒夫	大TV34	長田義行
大IP11	大湊幹郎	大TV34	西尾全司
大IP11	小林(佐藤		

年会費支払者・賛助金寄付者一覧

年会費のお支払い、賛助金のご寄付ありがとうございました。 ※ は年会費と賛助金の両方を納入いただいた方です。ご協力ありがとうございました。

Table with 2 columns: ID (e.g., 大E7, 大E10) and Name (e.g., 井口 毅, 磯崎豊一). Lists members and donors in the first column.

Table with 2 columns: ID (e.g., 大E26, 大E27) and Name (e.g., 山崎紳治, 味噌保雄). Lists members and donors in the second column.

Table with 2 columns: ID (e.g., 大D19, 大D20) and Name (e.g., 大塚敏雄, 白岩 修). Lists members and donors in the third column.

Table with 2 columns: ID (e.g., 大S44, 大S46) and Name (e.g., 田中秀夫, 森川(宮阪)真由美). Lists members and donors in the fourth column.

Table with 2 columns: ID (e.g., 大J42, 大HG47) and Name (e.g., 高橋康浩, 山口(芝下)直子). Lists members and donors in the fifth column.

Table with 2 columns: ID (e.g., 阪大E3, 大E7) and Name (e.g., 吉中真優, 谷岡翔平). Lists members and donors in the sixth column.

咲耶会(同窓会)本部・支部一覧表

本部	会長	連絡先	E-mail or TEL/FAX
	大内 一(大S28/院S13)	事務局	〒562-8678 箕面市船場東3-5-10 大阪大学 箕面キャンパス 外国学研究講義棟1F TEL&FAX (072)728-2327 sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp
支部	支部長名		
北海道	笹山喜市(大IP25)		〒003-0029 札幌市白石区平和通9丁目北1番29号 sasayama@sapporo.email.ne.jp
東北	黒木一吉(II E10)	高橋啓介(大PH52)	〒982-0821 仙台市太白区松が丘15-7 cb250Keisuke@yahoo.co.jp
東京	大下勝巳(短S5)	樽井一仁(大R23)	〒114-0003 東京都北区豊島5-2-20-1603 taru2742@yahoo.co.jp
長野	山西敏博(院後言社8)		〒386-0034 長野県上田市中之条371-7-202 ezm11541@nifty.ne.jp
名古屋	白岩 修(大D19)		〒465-0066 名古屋市中区東区梅森坂西1-801-107 shiraiwa1123@yahoo.co.jp
岐阜		丹羽宏造(大IN7)	〒508-0101 岐阜県中津川市苗木4827-48 k.niwa@ena-gf.jp
石川	楠根重和(院D7)		〒920-0813 石川県金沢市御所町1-373 forelle2003@yahoo.co.jp
福井	山下裕己(大S23)		〒915-1232 越前市二階堂町18-8 h.yamashita@fukuishimbun.co.jp
京都	宮川徳三(大S16)	長尾美知代(大S33)	〒602-8352 京都市上京区稲葉町459
奈良	佐柄保夫(大C26)		〒631-0804 奈良市神功1-4-125 sagara07@hera.eonet.ne.jp
大阪	金村義夫(II E10)		〒540-0021 大阪市中央区大手通3-3-3 日宝東本町ビルBF101号 ykanemun@forest.ocn.ne.jp
神戸		大江昌子(大B43)	〒650-0004 神戸市中央区中山手通2-4-15-402 株式会社マーレ mare@skyblue.ocn.ne.jp
播但	釜谷研造(大E2)		〒675-0038 加古川市加古川町木村140-8 FAX (079)424-7777
丹波	梅垣 誠(大E31)		〒669-3309 丹波市柏原町柏原20-1 umai@tamba.co.jp
香川	大西 晏(R25)	森本勝幸(大S15)	〒760-0080 高松市木太町九区843-1 morimoto.kren@docomo.ne.jp
徳島		小田敏治(大IN21)	〒770-0003 徳島市北田宮3丁目2-34 tosky2276@ao4.gmob.jp
愛媛	垣生千春(大IP40)		〒799-2460 愛媛県松山市菟木甲119-8 hazar-bahar.julai-25@ezweb.ne.jp
高知		周藤健史(大S30)	〒780-0024 高知市前里335-7 tkmrn1917825@me.pikara.ne.jp
岡山	草野 徹(大DM23)		〒701-1221 岡山市北区芳賀5112-98 ak19500319@icloud.com
広島		後藤 峻(南欧夜F42)	〒722-0022 広島県尾道市栗原町10035-2 シティハイツセピア301号 taquos.gotou@gmail.com
鳥取	小原越史(中北欧夜E30)		〒683-0802 鳥取県米子市東福原5-8-26-202 a2coh@yahoo.co.jp
島根	勝部由紀夫(大D33)		〒693-0101 島根県出雲市上島町1363 yukiokatsube@icloud.com
福岡	吾郷健二(大S10)	中尾史子(大IN27)	〒815-0083 福岡市南区高宮2-18-12-501 nfumi3191@gmail.com
熊本	かじえいせい(大S21)		〒861-2405 熊本県阿蘇郡西原村宮山出口1547-1 dreamincountry@gmail.com
宮崎	木崎宣博(大PB42)		〒880-0879 宮崎市宮崎駅東1-5-1 サーパス宮崎駅東1002号 kisakipc@yahoo.co.jp
沖縄	金城徹男(II D5)	鈴木正士(大S36)	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 琉球大学法文学部国際言語文化学科 msuzuki@grs.u-ryukyuu.ac.jp
北京	中嶋清治(大C21)		
		高橋咲代(阪大C5)	北京市(以下略) sakiyo12321@yahoo.co.jp
上海	渡邊 洋(大C29)	伏村和展(大C59)	sh_oufs@yahoo.co.jp
香港	太田明雄(大IT26)	小林敏子(東アジア大C57)	Flat 9B, Chuen Fat Building, 9 Valley Road, Ho Man Tin, Kowloon, Hong Kong 4styles.enterprise@gmail.com
ソウル	渡邊浩一(大K35)		Daiwa Securities Capital Markets Korea Co., Ltd 20 Fl.&21Fl., OnelFC, 10 Gukjegeumyung-Ro, Yeongdeungpo-Gu, Seoul, Korea kwatanabe@kr.daiwacm.com
ジャカルタ	坂口広之(大IN36)		Bandung, Indonesia (以下略) darwin0708@gmail.com
		高岡容子(大IN35)	Jakarta, Indonesia (以下略) ytakaoka@cbn.ne.jp
マニラ	テンマタイ都喜代(大E25)		# 16 Waling-waling St., Tahanan Village, Paranaque City, Metro Manila Philippines 1720 tsukiyotenmatay@gmail.com
バンコク	川村芳範(大TV24)		
		阪本法子(開発・環境大47)	Ms. Noriko Sakamoto800/940 Ashton Chula-Silom, Rama IV Road, Si Phraya, Bangrak, Bangkok 10500, Thailand osakagaidaikkk@yahoo.co.jp
ハノイ外語会	野中亮二(中北欧夜E42)		r-nonaka@ngkntk-vn.com
ヤンゴン外語会	近藤貴政(中東大A58)		bravo3aleek@yahoo.com
ニューヨーク		石田佳子(大D29)	230 East 44th Street # 3C New York, NY 10017 USA hime.yoshikoishida@gmail.com
ロサンゼルス	望月一郎(大E25)		951 Kingsley Drive Arcadia, CA91007 USA ichimochizuki@yahoo.co.jp
		西川ノーマン裕子(大TV36)	4060 Alla Road, Los Angeles, CA 90066 USA hirokonumann@gmail.com
サンパウロ	草薙綾子(中南米大PB48)		Alameda Santos, 705-cj. 17-Cerq. Cesar Sao Paulo-SP-Brasil-01419-902 wec@wecbrazil.com
ロンドン			
デュッセルドルフ			
パリ	松本隆男(大F4)		c/o Mr. Takao MATSUMOTO 11 Rue Delabordere 92200 Neuilly / Seine France t.matsumoto@skyblue.fr
イタリア		田中佳代子(大IT38)	Montefiascone VT Italy (以下略) kytknk2022@gmail.com
モスクワ	岩本 茂(大R18)		〒169-0051 東京都新宿区西早稲田(以下略) iwamoto@jtools.biz
イスタンブール	坂本恭典(大R40)		c/o Mitsubishi Corporation Istanbul Main Branch yasunori.sakamoto@mitsubishicorp.com



株式会社 サラト

TEL 0120-953-070
受付時間 月～金 9:30～12:00 / 13:00～17:00

同窓会幹事代行承ります。

※(株)サラトは同窓会の名簿管理会社です。



令和6年度 咲耶会役員名簿					
名誉会長	筒井佐代	院 J18	幹事	西村朋也	大 TV22
会長	大内 一	院 S13	〃	石野伸子	大 D22
副会長	井上泰子	大 E15	〃	川村芳範	大 TV24
〃	小林正受	大 E16	〃	中島裕司	大 DM24
〃	荒木和夫	大 DM18	〃	笹原敏生	大 IN27
〃	樽井一仁	大 R23	〃	須佐多恵	院 R20
〃	青木伸也	大 TV28	〃	上原順一	院 R22
幹事	西尾 齊	大 E11	〃	植草美香	大 B40
〃	前田征信	大 K16	〃	福田義昭	院後言語 1
〃	深川泰博	大 E16	〃	大江昌子	大 B43
〃	白岩 修	大 D19	〃	並川嘉文	院前日本 7
〃	三次召尚	II C5	〃	岡本淳子	院後言語 8
幹事	矢元貴美	院前東南ア 8	〃	菊池信孝	開発大 57
〃	福山泰海	大 H59	〃	後藤 峻	南欧夜 F42
大学役員	原真由子		〃	菊池正和	
〃	岡本晶子	大 S29	会計監査	野垣和美	大 P33
〃	少徳敬雄	大 E11	相談役	大水 勇	大 C15

『咲耶』編集委員会 委員長 井上泰子 / 委員 上原順一・並川嘉文・岡本淳子・矢元貴美 / 事務局 天野豊子・犬飼祐子・大熊美紀

◆ 個人情報の取扱いについて

咲耶会は個人情報保護法遵守の立場から会員個人情報については適切に扱うことが重要であると考えています。

- 登録の個人情報は、下記の目的に利用します。
 - 会員のデータ管理
 - 総会・同窓会活動各種案内
 - 会報『咲耶』の送付
 - 各支部からの申請に基づき、当該地域のデータ提供
 - 語科・同期会責任者からの申請に基づき、データ提供
 - その他会則に基づく活動
- 自己情報の提供は任意です。
- 個人データの本人からの請求があった場合には、開示、訂正、追加、利用停止、削除を行います。
- 同窓生情報のお問合せは、相手方会員の了解があった場合のみのご案内といたします。
- 登録の個人情報は委託先も含め、機密保持に万全を尽くします。

編集後記

『咲耶』35号をお届けします。
2024年3月23日、北大阪急行「箕面船場阪大前駅」が予定より3年遅れで、いよいよ開業。箕面新キャンパス時代はさらに新しいフェーズを迎えました。さまざまな世代が、さまざまな国、さまざまなジャンルで活躍、母校100年の歴史の重みを感じます。
昨年の司馬遼太郎生誕100周年につづき、今年は陳舜臣の生誕100周年。同世代で100歳の今もなお現役で活躍中の福田玲三氏に「菜の花」へのご寄稿をお願いしました。第二次世界大戦の戦場を知る数少ない存在として、氏の平和への信念と、強靱で一貫した生き方に

に触れていただければと思います。「わたしのキャリアレポート」では、海外にしっかりと根を下ろし、人間愛とバイタリティー溢れる活動により地域社会に貢献、外語精神を見事に具現化しているお二人の女性にご寄稿いただきました。
大阪大学との統合から17年の今年1月、大阪外国語大学最後の学長であった是永駿名誉教授が急逝されました。会報『咲耶』を隔々まで読んでくださり、適切なお助言と労いの言葉を寄せてくださった先生の温かさが懐かしく思い出されます。先生の母校への想いにお応えすべく、これからも真心を込めて母校と同窓生の皆様をつないでまいります。
(編集委員会)



会報 No.35 (2024)

発行 令和6年9月

発行者 咲耶会(大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会)

〒562-8678 箕面市船場東3-5-10
大阪大学 箕面キャンパス 外国学研究講義棟1F

☎ 072(728)2327 ✉ sakuya@sfs.osaka-u.ac.jp

🏠 sakuyakai.net 🌐 www.facebook.com/SAKUYAKAI

郵便払込口座番号: 00910-7-21536 加入者名: 咲耶会



咲耶会 メールアドレス
QRコード



咲耶会 facebook
QRコード